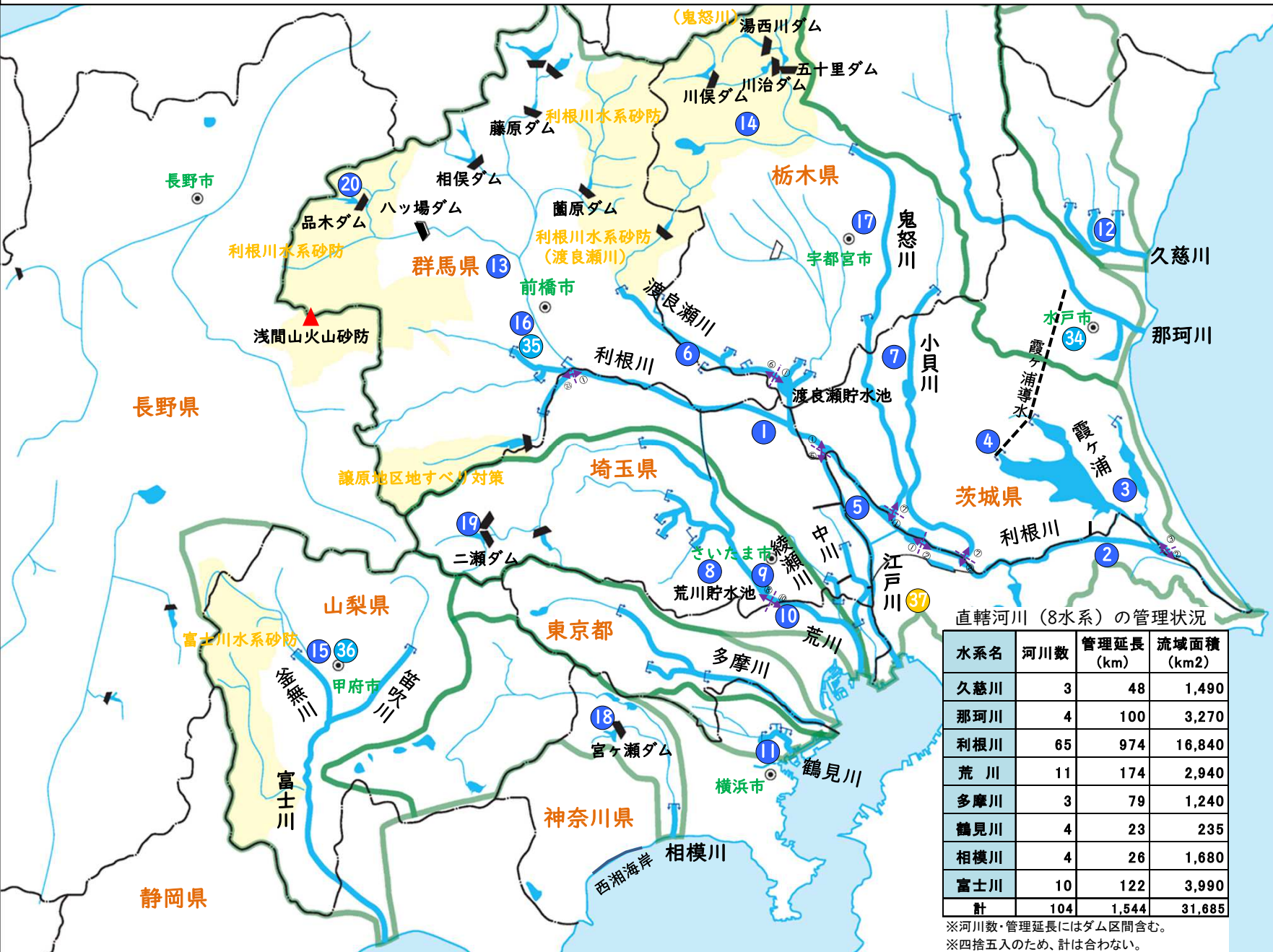


令和7年度 第1回メディア連携協議会 河川部

令和7年 8月8日（金）

○河川は1都9県に跨がる、8水系、104河川、1,544kmの区間を管理。
○海岸は2海岸、ダムは13ダム・2導水路、砂防は2水系砂防・1火山砂防・1地すべりを管理。



河川事業担当事務所

- 1 利根川上流河川事務所
- 2 利根川下流河川事務所
- 3 霞ヶ浦河川事務所
- 4 霞ヶ浦導水工事事務所
- 5 江戸川河川事務所
- 6 渡良瀬川河川事務所
- 7 下館河川事務所
- 8 荒川上流河川事務所
- 9 荒川調節池工事事務所
- 10 荒川下流河川事務所
- 11 京浜河川事務所
- 12 久慈川緊急治水対策河川事務所
- 13 利根川水系砂防事務所
- 14 日光砂防事務所
- 15 富士川砂防事務所
- 16 利根川ダム統合管理事務所
- 17 鬼怒川ダム統合管理事務所
- 18 相模川水系広域ダム管理事務所
- 19 二瀬ダム管理所
- 20 品木ダム水質管理所

河川・道路事業担当事務所

- 34 常陸河川国道事務所
- 35 高崎河川国道事務所
- 36 甲府河川国道事務所

技術事務所

- 37 関東技術事務所

直轄河川（8水系）の管理状況

水系名	河川数	管理延長 (km)	流域面積 (km2)
久慈川	3	48	1,490
那珂川	4	100	3,270
利根川	65	974	16,840
荒川	11	174	2,940
多摩川	3	79	1,240
鶴見川	4	23	235
相模川	4	26	1,680
富士川	10	122	3,990
計	104	1,544	31,685

※河川数・管理延長にはダム区間含む。
※四捨五入のため、計は合わない。

凡 例

- 河川
- 流域界
- 直轄河川区間
- 直轄砂防区域

8水系出水時の注意事項

○関東地方の地形の特徴（大雨の降り方）

北西側に山脈を抱え、南東側に開けた広大な平野を有する。

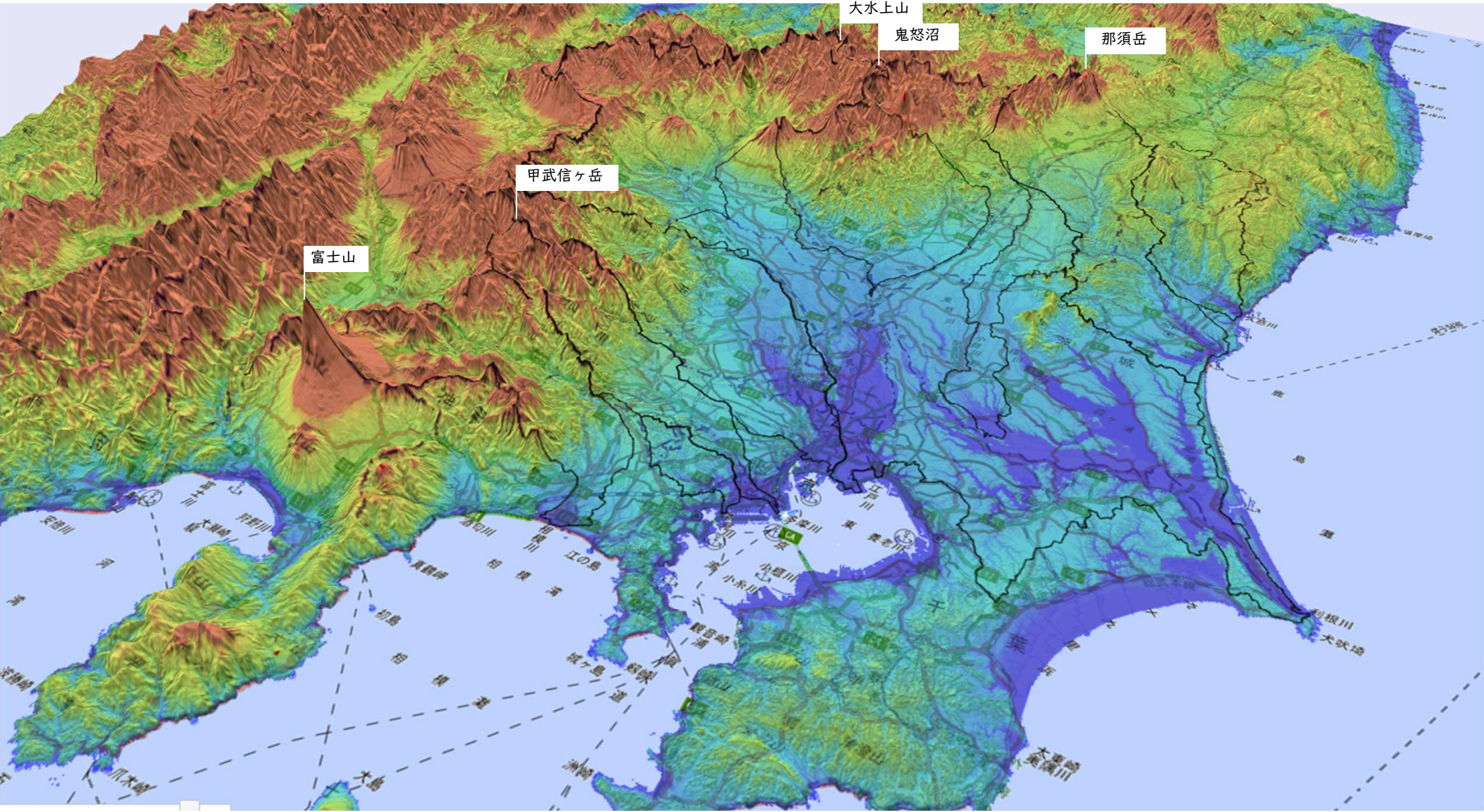
→ 国管理河川：前線が西側から進入することが難しい

台風が通過する際には、各河川の上流部に多くの降雨をもたらす場合が多い。

○河川が流れる場所と流域の違いに注意が必要

雨が降っていない地域でも水位が高くなる場合も。

例：鬼怒川、江戸川

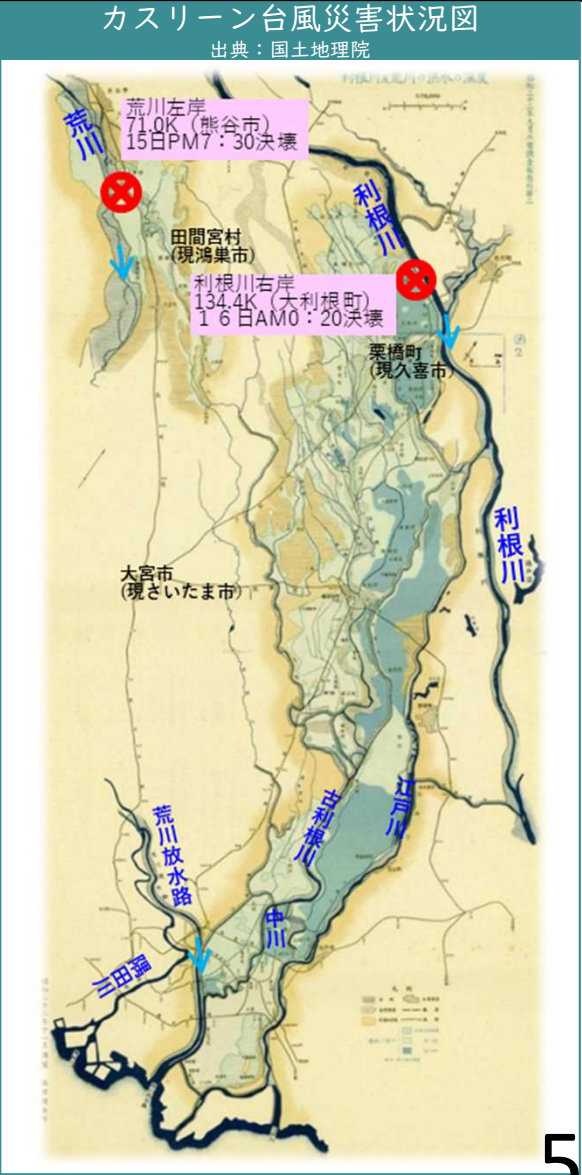
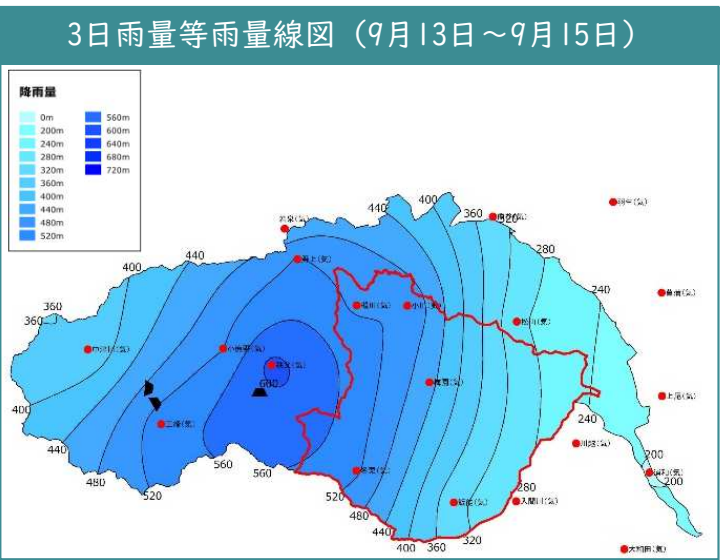


カスリーン台風の概要

- 昭和22年（1947年）9月カスリーン台風による出水では、熊谷市久下地先、鴻巣市及び入間川の各所で堤防が決壊し、利根川からの氾濫と合わせて埼玉及び東京の低地は濁水の海と化し、戦後復興の緒についたばかりの流域に未曾有の被害を与えた。
- 岩淵地点上流域における流域平均3日雨量（S22.9.13～15）は437mmとなり、累加雨量は、秩父観測所で600mm以上、名栗観測所で500mm以上を記録した。
- この洪水により、死者・行方不明者109人、床下浸水79,814戸、床上浸水124,896戸、全半壊・流失3,428戸の戦後最大となる被害が発生した。

昭和22年9月洪水 被害状況			
死者・行方不明者		109人	
家屋全・半壊及び流出戸数		3,428戸	
浸水家屋戸数	床上浸水	124,896戸	
	床下浸水	79,814戸	

※「埼玉県の気象百年」、「東京都水害史」、「東京都水防計画（資料編）」、を元に整理



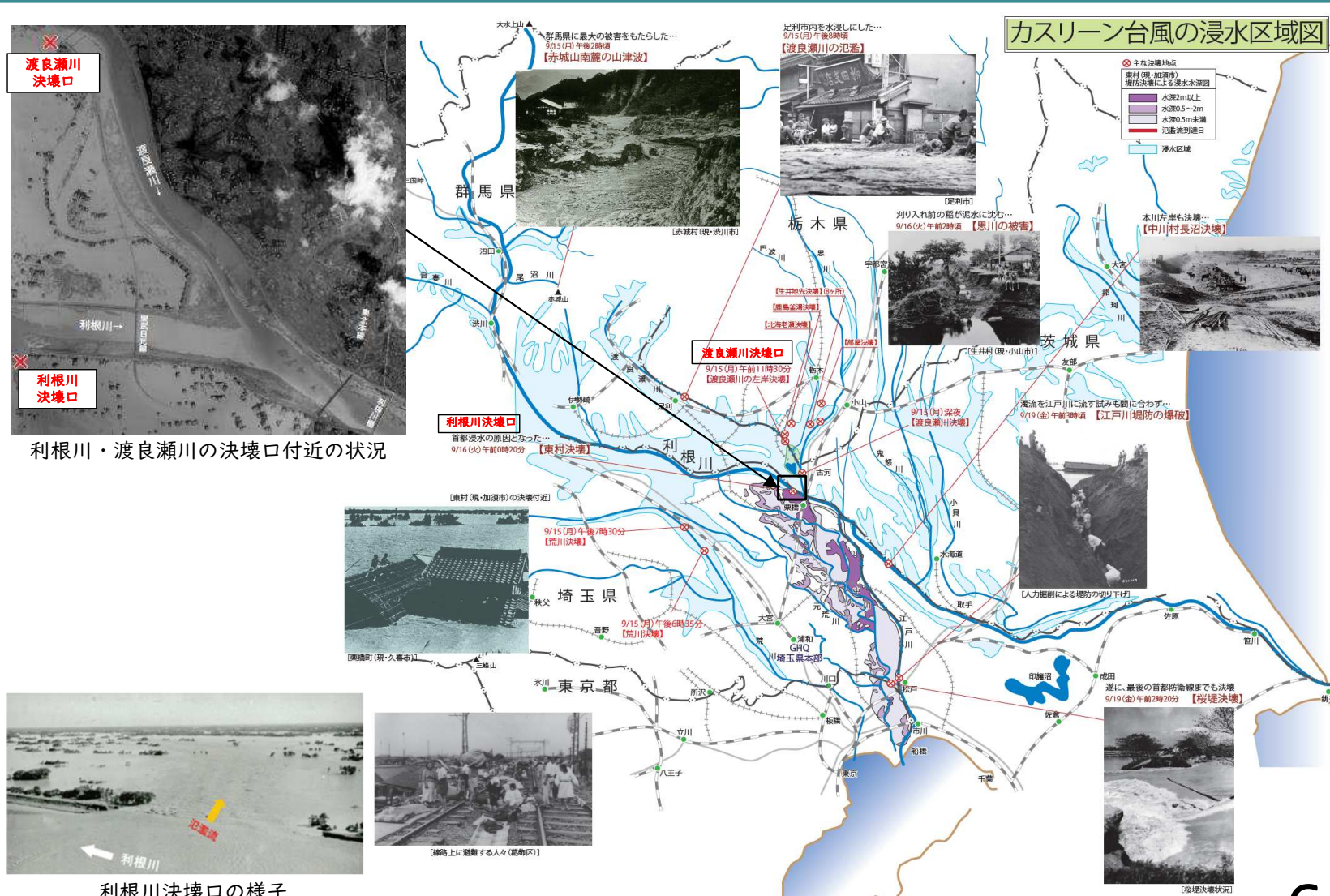
カスリーン台風の概要

- 昭和22年9月、房総半島沖を通過した「カスリーン台風」により、利根川や渡良瀬川では全川にわたり過去最高水位を記録した。
- 9月15日に渡良瀬川等、16日午前0時15分には利根川合流点に近い渡良瀬川の三国橋右岸、午前0時20分には北埼玉郡東村（現加須市）新川通地先の利根川右岸が決壊するなど、利根川流域全域にわたって洪水被害が発生した。
- 利根川右岸の決壊による氾濫流は、今の中川・綾瀬川流域を飲み込み、荒川の氾濫流とも併せ、東京都と埼玉県の間にある大場川の桜堤までも決壊させ、葛飾区・江戸川区・足立区の東京区部にまで達するなど、関東一円に大きな被害をもたらした。

カスリーン台風の経路



カスリーン台風による浸水状況



カスリーン台風による被害

都県名	家屋浸水（戸）		家屋流出・倒壊（戸）	家屋半壊（戸）	死者（人）	田畑の浸水（ha）
	床上	床下				
東京都	72,945	15,485	56		8	2,349
千葉県	263	654		6	4	2,010
埼玉県	44,610	34,334	1,118	2,116	86	66,524
群馬県	31,091	39,938	1,936	1,948	592	62,300
茨城県	10,482	7,716	209	75	58	19,204
栃木県		45,642	2,417	3,500	352	24,402
合計	303,160	5,736	7,645	1,100	176,789	



利根川決壊口の様子

昭和34年8月洪水 昭和57年8月洪水の概要

- 昭和34年8月洪水は、笛吹川における戦後最大洪水であり、堤防決壊が発生し、甚大な氾濫被害が発生した。
- 昭和57年8月洪水は、富士川・釜無川における戦後最大洪水であり、堤防決壊は発生しなかったが、無堤防地区で外水氾濫が発生した。

昭和34年8月洪水

笛吹川：戦後最大洪水

- 昭和34年8月台風第7号が富士川沿川を北上し、早川流域・東部山岳地帯を中心に雨が降り、清水端上流の流域平均雨量は254mm/2日であった。
- 武田橋下流や根津橋上流などで堤防が決壊するなどの甚大な被害が発生した。

出水被害状況	
流量(清水端) (北松野)	約5,800m ³ /s 約9,800m ³ /s
死者・行方不明者 【人】	(山梨県内) 884
家屋全壊・半壊・流出 【戸】	(山梨県内) 6,536
家屋浸水 【戸】	(山梨県内) 14,495



笛吹川左岸の堤防の決壊 釜無川武田橋流失 市川三郷楠南地区の浸水

昭和57年8月洪水

富士川・釜無川：戦後最大洪水

- 昭和57年8月台風第10号が渥美半島から輪島半島に抜ける経路をとり、早川・富士川中流域を中心に雨が降り、清水端上流の流域平均雨量は283mm/2日であった。
- 堤防の決壊は発生しなかったものの、東海道本線鉄橋の流失のほか、河岸侵食や内水氾濫、無堤防地区での外水氾濫が発生した。
- 被災箇所は富士川13箇所、釜無川11箇所、笛吹川15箇所の計39箇所であった。

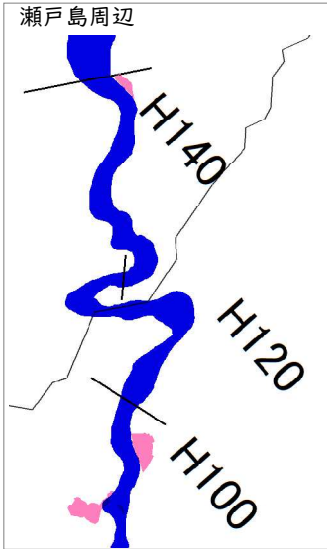
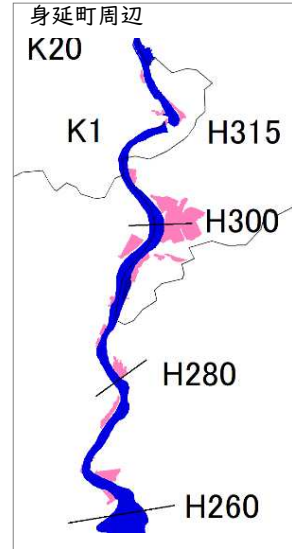
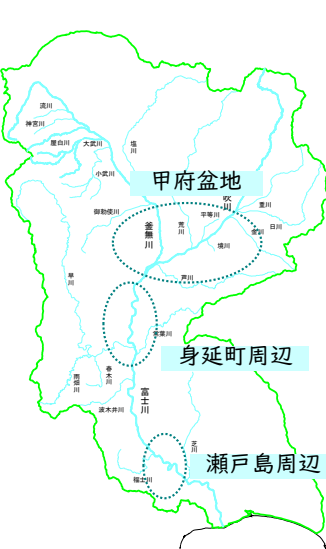
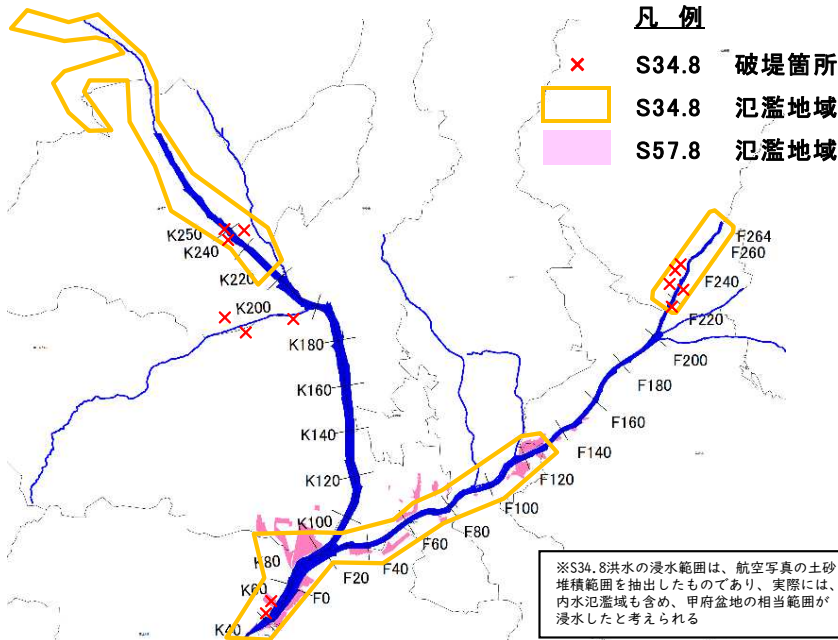
出水被害状況	
流量(清水端) (北松野)	約6,800m ³ /s 約14,300m ³ /s
死者・行方不明者 【人】	(山梨県内) 7
家屋全壊・半壊・流出 【戸】	(全流域) 46
床上浸水 【戸】	(全流域) 523
床下浸水 【戸】	(全流域) 632



東海道本線鉄橋の流失 富士川町駅前通り地区の浸水 身延町波木井地先の堤防洗掘

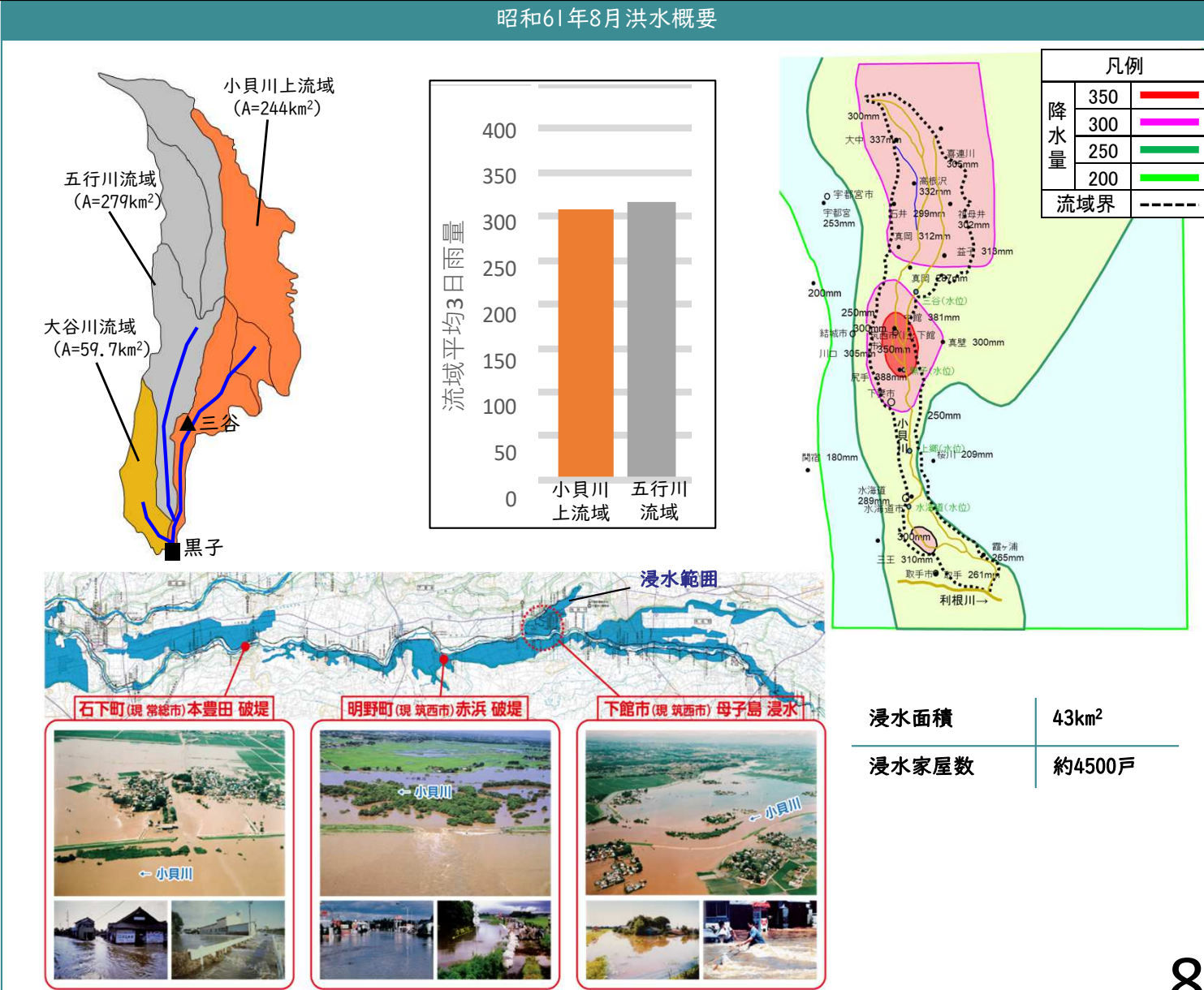
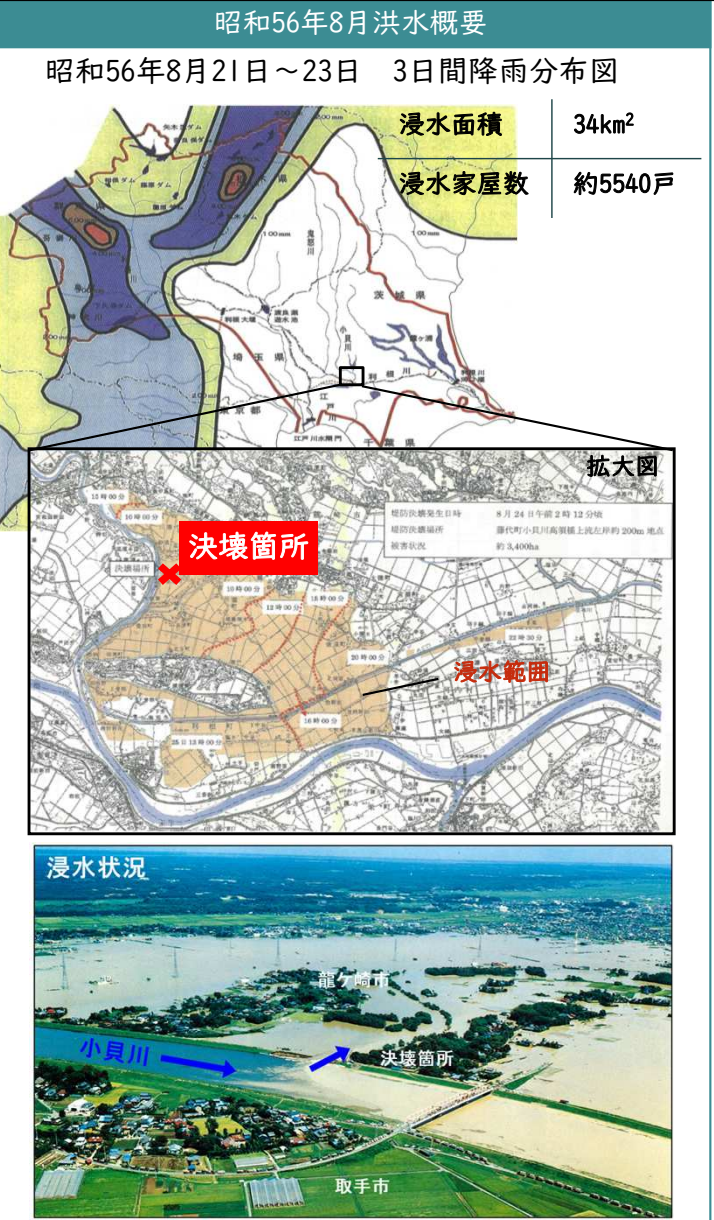
昭和34年8月洪水、昭和57年8月洪水における浸水域

甲府盆地



昭和56年8月洪水 昭和61年8月洪水の概要

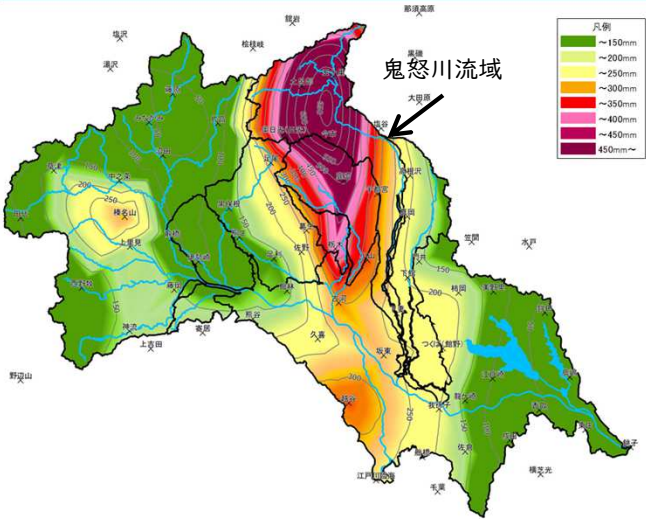
- 昭和56年8月、台風の影響により、利根川と鬼怒川の上流山間部では総雨量が300～500mmに達して利根川本川で洪水が発生し、小貝川は利根川本川からの逆流により、24日午前2時頃、左岸3.7km付近（龍ヶ崎市高須地先）にて決壊した。
- また、昭和61年台風第10号の影響により、黒子上流域の雨量が流域平均で300mm/日以上に達し、無堤部からの溢水により、下館市（現 筑西市）母子島地区では、5集落が冠水し、明野町（現 筑西市）赤浜地先の左岸堤防と石下町（現 常総市）本豊田地先の右岸堤防の2箇所決壊が発生した。



平成27年関東・東北豪雨の概要

- 平成27年9月の関東・東北豪雨では、栃木県日光市の五十里雨量観測所において昭和50年の観測開始以来最多の24時間雨量560mmを記録するなど、各観測所で観測史上最多雨量を記録し、鬼怒川の石井地点等において観測史上最高の水位を記録する大洪水となった。
- この洪水により、常総市三坂町地先の鬼怒川左岸で決壊が生じ、常総市の約1/3に相当する約40km²が浸水し、常総市役所も浸水するなど大きな被害となった。

等雨量線図（9月8日～10日累加データ）



水位状況



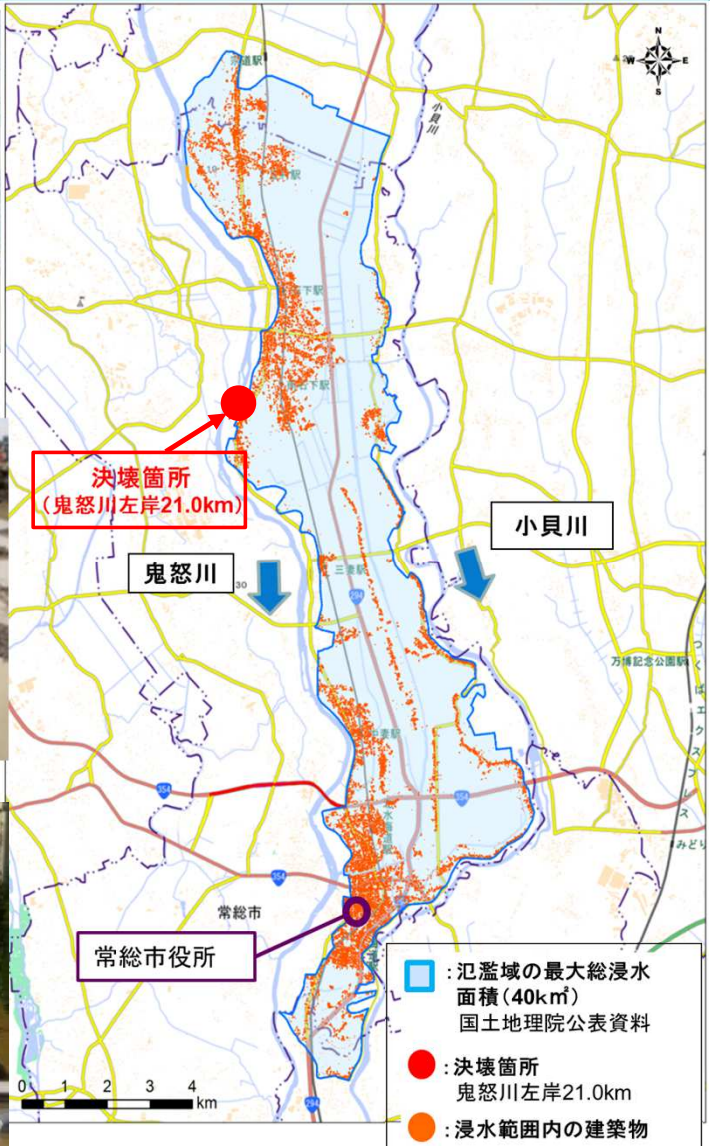
決壊箇所と浸水状況



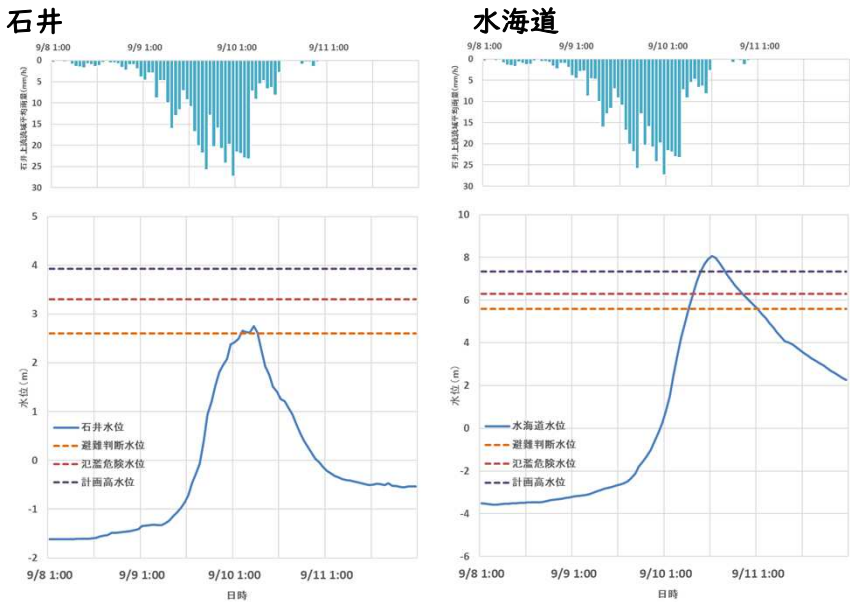
家屋等流出状況



常総市役所前の浸水状況



水文データ

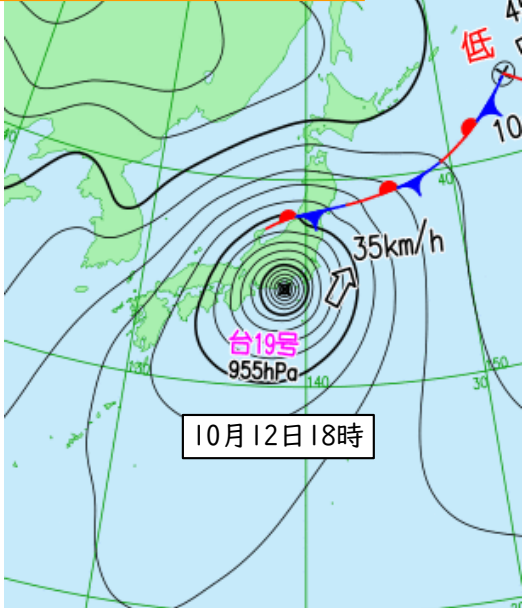


令和元年東日本台風(台風第19号)

令和元年東日本台風（台風第19号）の概要

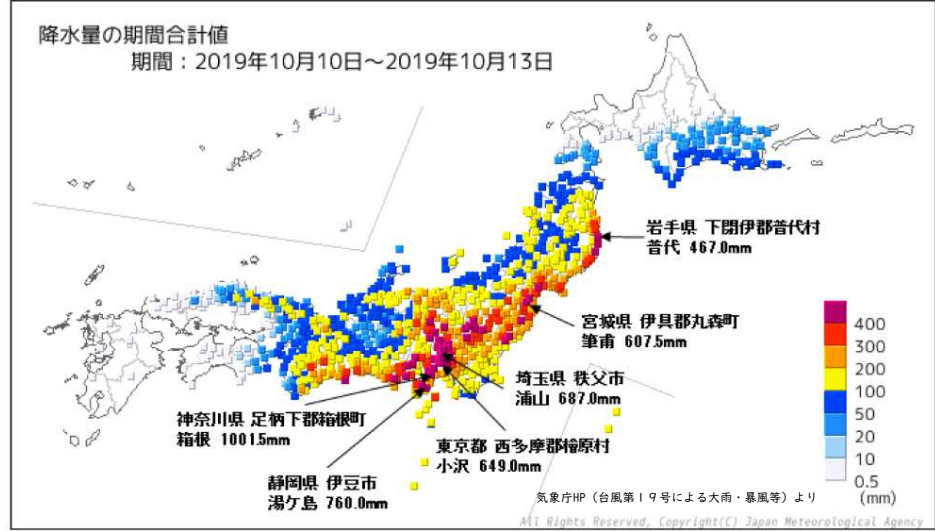
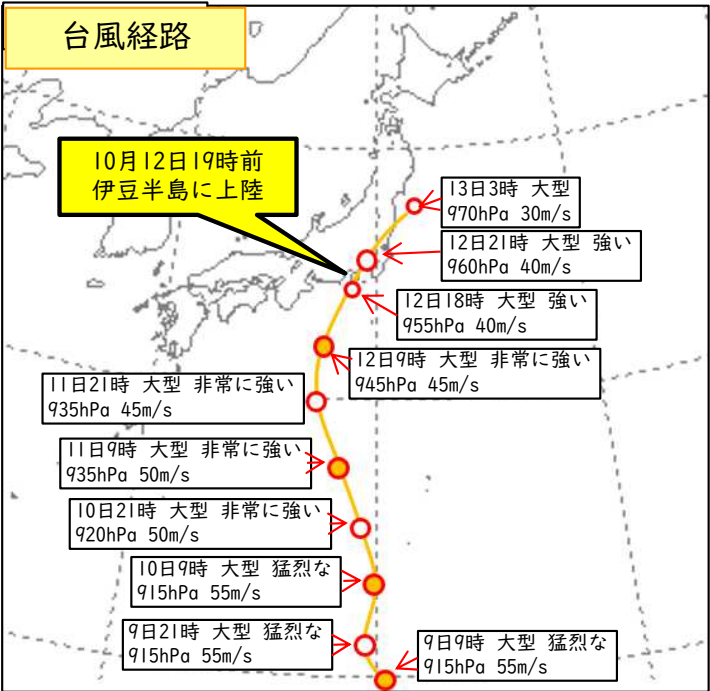
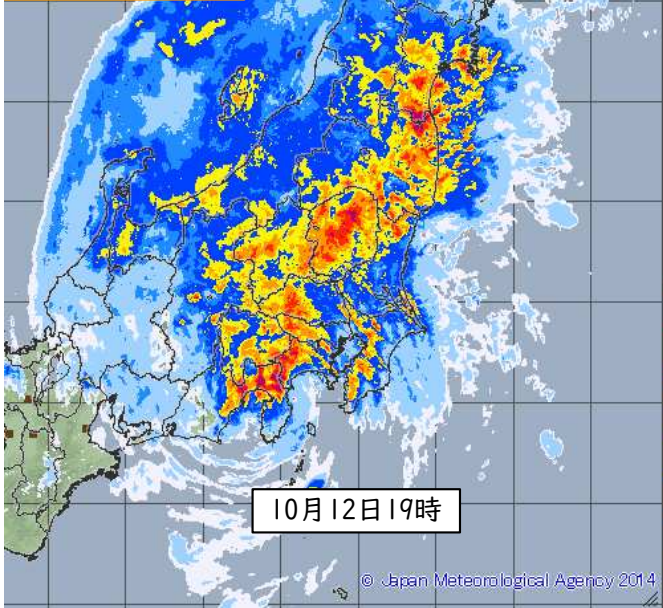
- 台風本体の発達した雨雲や台風周辺の湿った空気の影響で、静岡県や関東甲信地方、東北地方を中心に広い範囲で記録的な大雨となった。
- 10日からの総雨量は神奈川県箱根町で1000ミリに達し、関東甲信地方と静岡県の17地点で500ミリを超えた。

気象・降雨の概要



期間降水量分布図(10月10日0時～10月13日24時)

レーダー雨量図



72時間降水量の多い方から10位（10月10日0時～10月13日24時）

順位	都道府県	市町村	地点	期間合計値
				mm
1	神奈川県	足柄下郡箱根町	箱根(ハコネ)	1001.5]
2	静岡県	伊豆市	湯ヶ島(ユガシマ)	760.0]
3	埼玉県	秩父市	浦山(ウラヤマ)	※荒川流域 687.0]
4	東京都	西多摩郡檜原村	小沢(オザワ)	※多摩川流域 649.0]
5	静岡県	静岡市葵区	梅ヶ島(ウメガシマ)	631.5]
6	神奈川県	相模原市緑区	相模湖(サガミコ)	※相模川流域 631.0]
7	東京都	西多摩郡奥多摩町	小河内(オゴウチ)	※多摩川流域 610.5]
8	宮城県	伊具郡丸森町	筆甫(ヒッポ)	607.0]
9	埼玉県	比企郡ときがわ町	ときがわ(トキガワ)	※荒川流域 604.5]
10	埼玉県	秩父市	三峰(ミツミネ)	※荒川流域 593.5]

○ 関東地方整備局管内では、4河川11箇所で決壊。

1. 河川氾濫

●決壊（4河川11箇所）

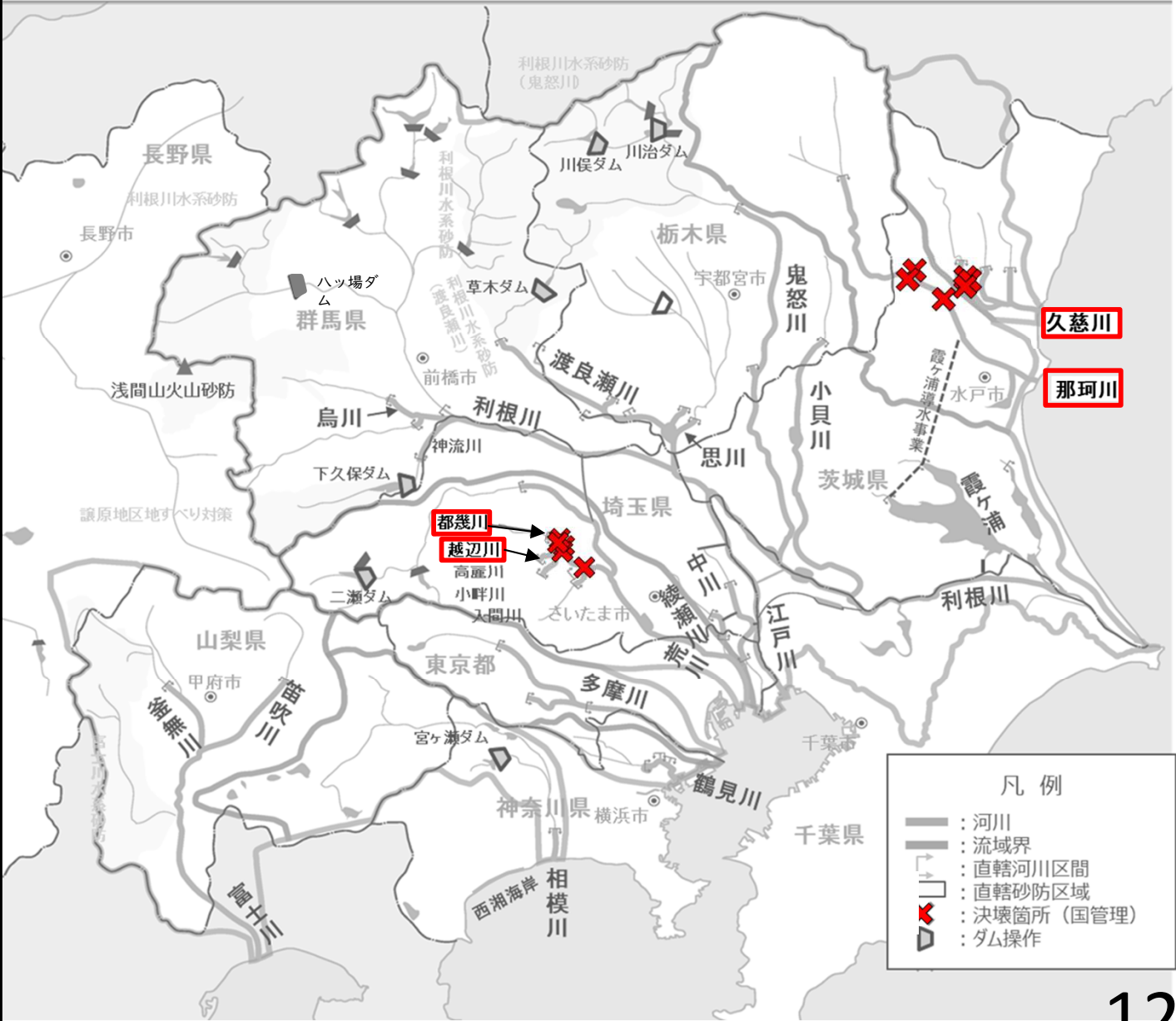
県	水系	河川	地先
埼玉	荒川	越辺川	埼玉県川越市平塚新田地先 (右岸0.0k付近)
			埼玉県東松山市正代地先 (左岸7.6k付近)
		都幾川	埼玉県東松山市早俣地先 (右岸0.4k付近)
			埼玉県東松山市葛袋地先 (右岸5.9k付近)
			埼玉県東松山市石橋地先 (左岸6.5k付近)
茨城	久慈川	久慈川	茨城県常陸大宮市富岡地先 (左岸25.5k付近)
			茨城県常陸大宮市下町地先 (右岸25.5k付近)
			茨城県常陸大宮市塩原地先 (左岸27.0k付近)
	那珂川	那珂川	茨城県那珂市下江戸地先 (右岸28.6k付近)
			茨城県常陸大宮市野口地先 (左岸40.0k付近)
			茨城県常陸大宮市下伊勢畑地先 (右岸41.2k付近)

●越水・溢水（9河川34箇所）

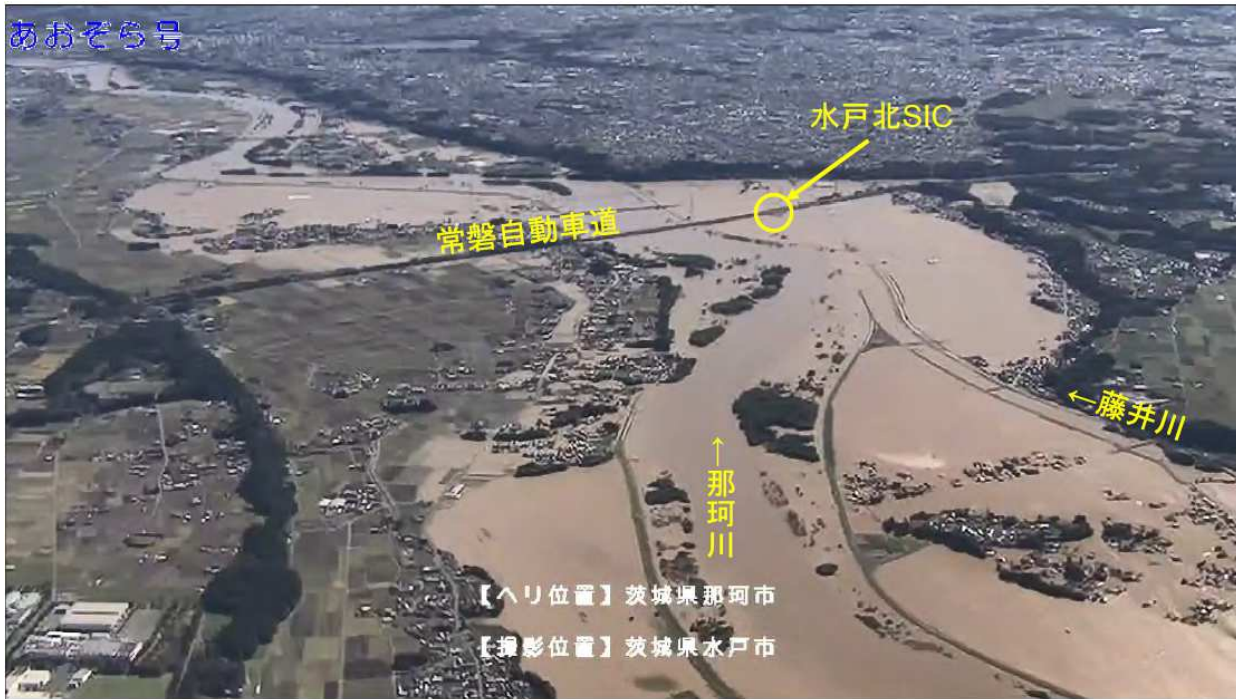
都幾川1、多摩川1、那珂川13、久慈川1、
涸沼1、里川1、利根川8、鬼怒川1、荒川7

2. ダム

国・水機構管理6ダムで異常洪水時防災操作を回避
(二瀬、川俣、川治、草木、下久保、宮ヶ瀬ダム)



○ 那珂川水系那珂川では3箇所、久慈川水系久慈川では3箇所の堤防が決壊、広い範囲で浸水被害が発生。



○ 荒川水系越辺川・都幾川では、5箇所において堤防が決壊し、広い範囲で浸水被害が発生。



川越市平塚新田地先
(越辺川右岸0 k 付近)

東松山市早俣地先
(都幾川右岸0.4 k 付近)

東松山市正代地先
(越辺川左岸7.6 k 付近)



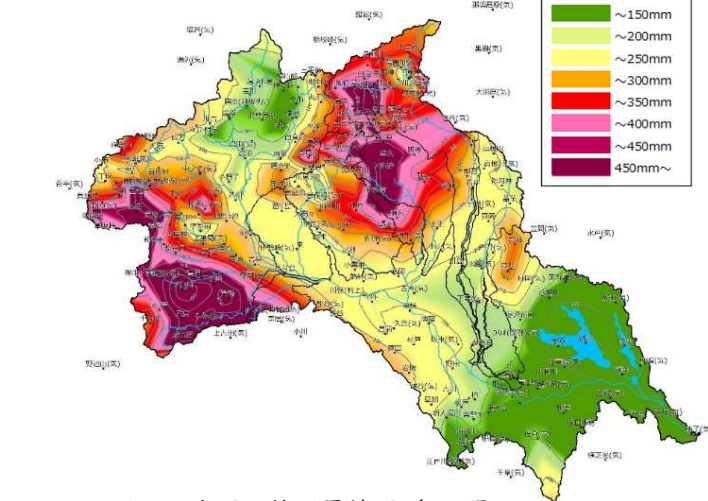
令和元年東日本台風（台風第19号）の概要（利根川）

- 令和元年東日本台風は昭和22年カスリーン台風に次いで近年最大規模の洪水となり、基準地点八斗島において河川整備計画目標流量を上回る17,500m³/s（ダム・氾濫戻し）を記録した。
- 利根川上流ダム群等のカスリーン台風以降に整備された施設による効果が確認された一方で、利根川中流部や下流部などにおいて計画高水位を超過し、本川の無堤区間や支川で浸水が生じたため、今後もさらなる河川整備が必要である。

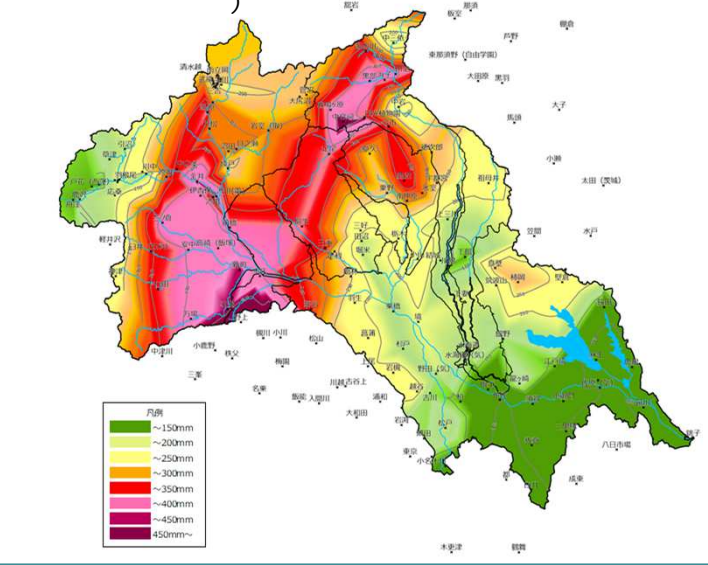
利根川流域の降雨の状況

■上流部は非常に大きな降雨であったが、平野部は小雨傾向

RI.10洪水の等雨量線図（3日間）

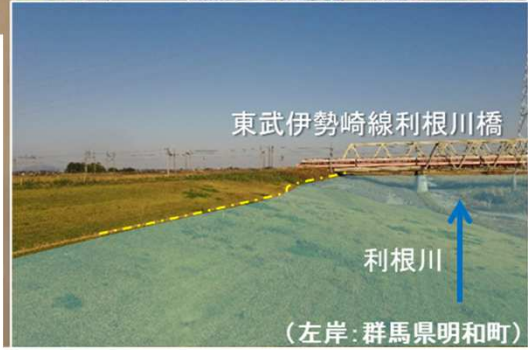
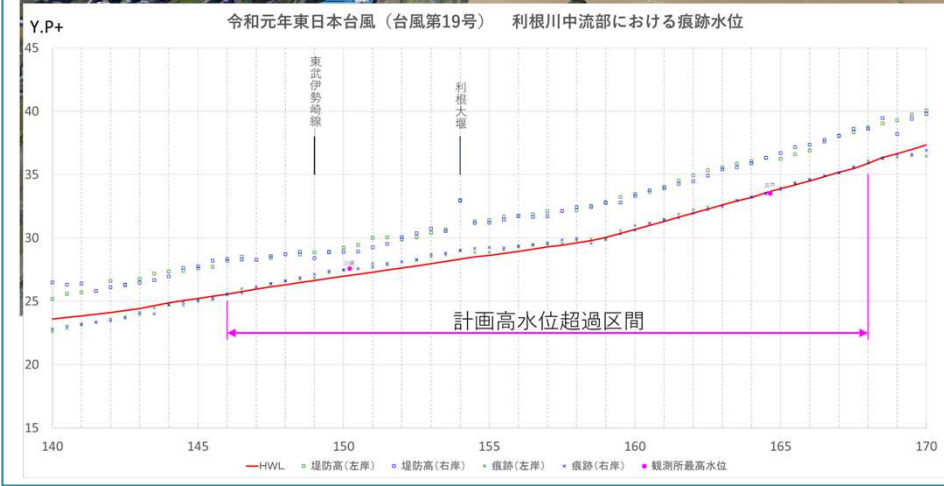


S22.9カスリーン台風の等雨量線図（3日間）



利根川中流部状況（利根川150k付近）

■HWLを超過し、堤防天端近くまで水位が上昇



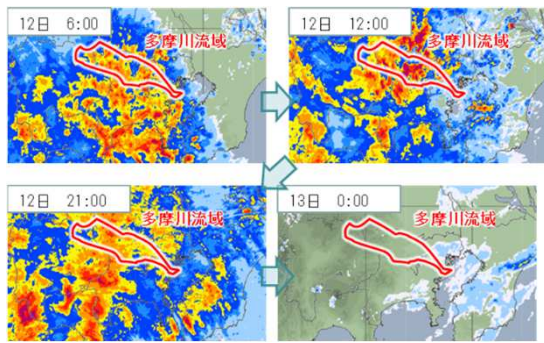
令和元年東日本台風（台風第19号）の概要（多摩川）

- 令和元年東日本台風（台風第19号）の接近に伴い、10月11日から多摩川流域全体の広範囲に強い雨域がかかり大雨となった。
- 令和元年東日本台風（台風第19号）による出水では多いところで600mmを超える雨量が観測された。また、20mm/h以上の強い降雨が15時間にわたって観測された。
- 下流部の田園調布（上）と中下流部の石原、支川浅川の浅川橋では計画高水位を超過し基準地点石原において実績通過流量が約7,000m³/sとなり、現行河川整備基本方針の計画高水流量6,500m³/sを上回るものであった。

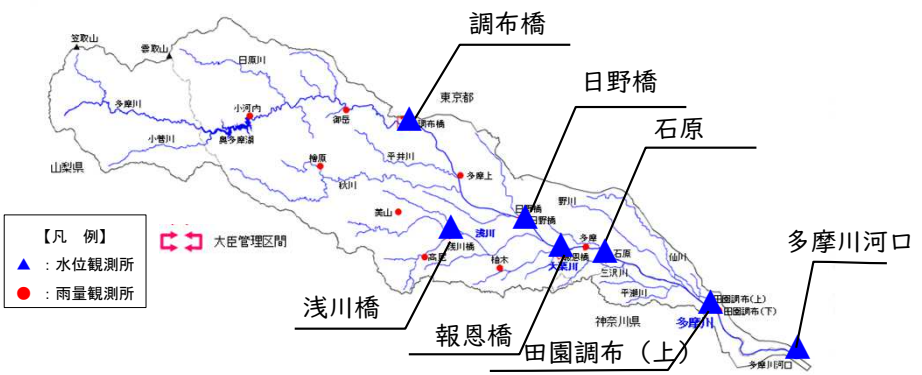
台風経路



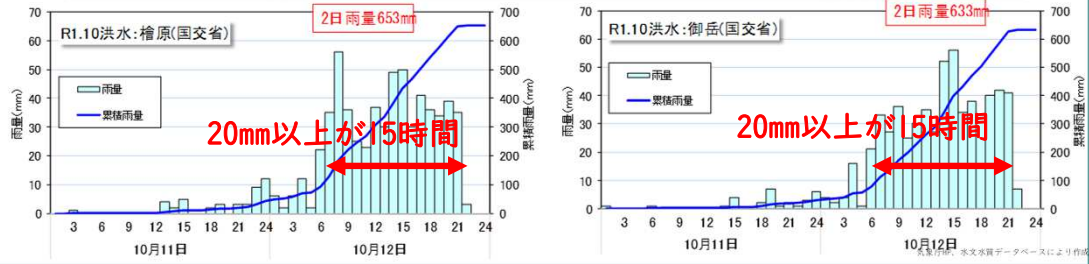
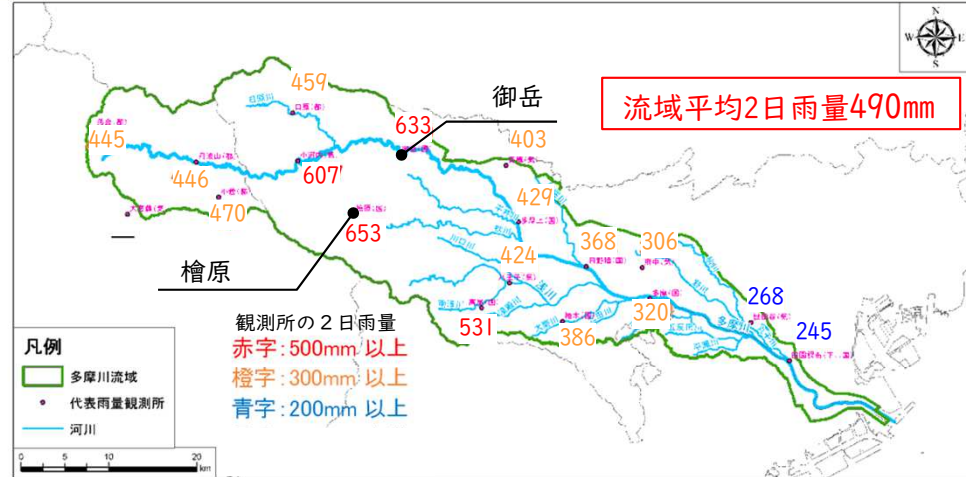
レーダ雨量図



水位状況



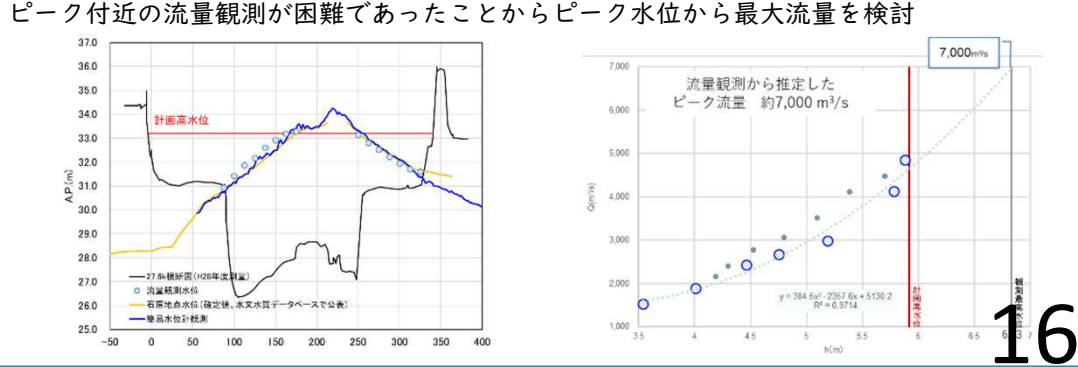
降雨状況



河川	観測所	計画高水位 (m)	氾濫危険水位 (m)	令和元年東日本台風 (台風第19号) における最高水位 (m)		過去最高水位 (m)		観測開始
				発生日時	水位	発生日時	水位	
多摩川	調布橋	4.70	1.60	2019/10/12 22:00	2.47	1965/09/18 06:00	2.60	1938年
	日野橋	4.71	—	2019/10/12 23:00	4.40	1982/08/02 04:00	3.54	1962年
	石原	5.94	4.90	2019/10/12 23:00	6.24	1982/08/02 4:00	6.12	1932年
	田園調布 (上)	10.35	8.40	2019/10/12 23:00	10.77	1974/09/01 19:00	9.07	1928年
	多摩川河口	3.80	—	2019/10/13 4:00	2.64	1971/07/23 14:00	4.15	1964年
浅川	浅川橋	3.58	2.60	2019/10/12 21:00	3.63	2008/8/29 00:00	2.66	1973年
大栗川	報恩橋	3.69	2.50	2019/10/12 21:00	3.05	2008/08/29 03:00	3.28	1968年

※ 赤字は過去最高水位を超過、オレンジは計画高水位を超過
※ 日野橋・石原観測所はピーク付近欠測
水文水質データベースにより作成

流量状況



洪水時の情報提供について

<洪水予報>

警戒レベル2相当 警戒レベル3相当 警戒レベル4相当 警戒レベル5相当

標題

氾濫注意情報

氾濫警戒情報

氾濫危険情報

氾濫発生情報

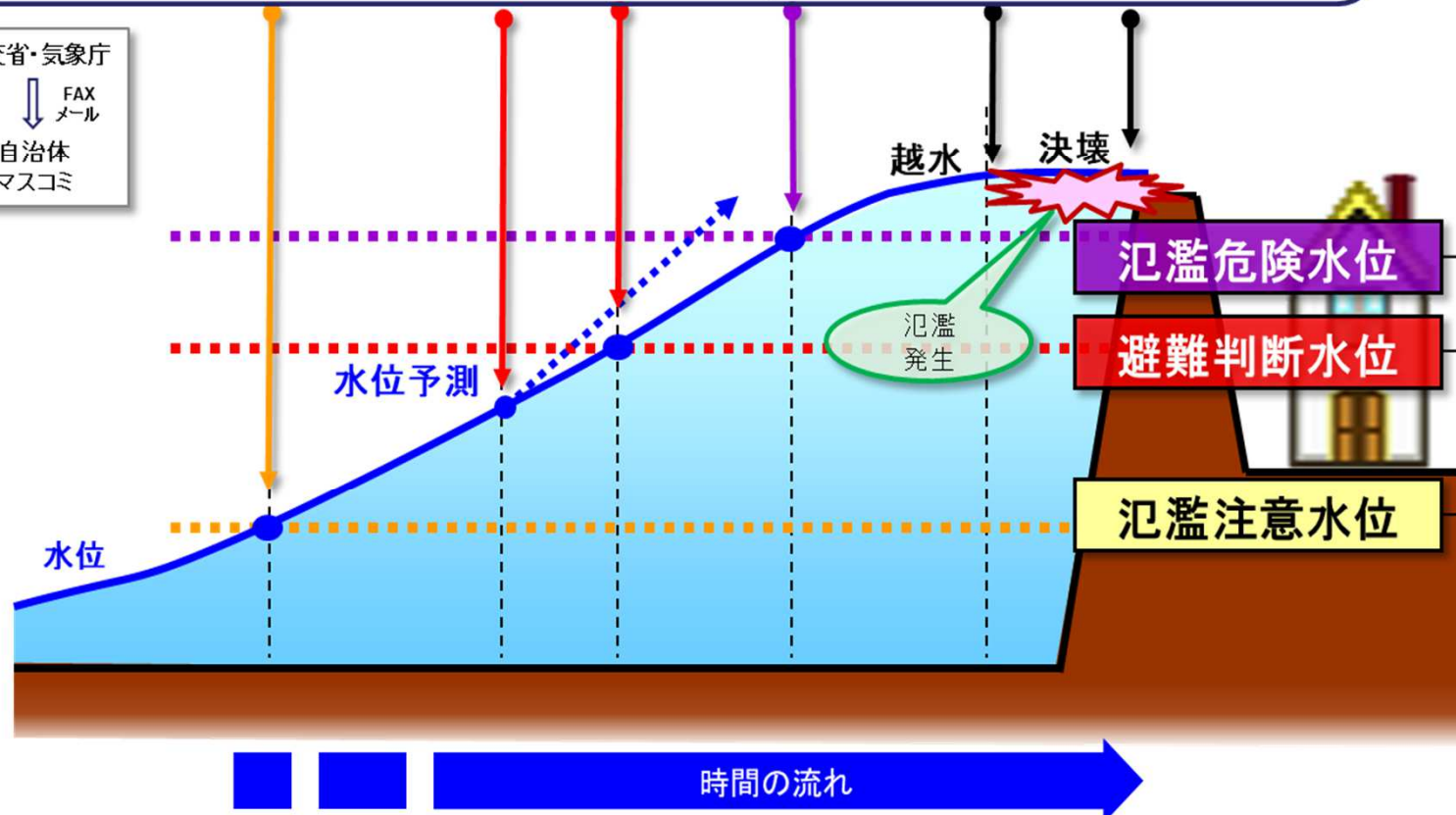
主文の 記載内容

- 洪水に関する情報に注意してください
- 高齢者等避難の目安
- 避難指示発令の目安
- 災害が発生
- 市町村からの避難情報に十分注意するとともに、適切な防災行動をとってください
- 氾濫により〇〇市は、浸水する恐れがあります。
- 〇〇川では、〇〇市 〇〇地区で氾濫しています。
- 市町村からの避難情報を確認し、各自安全確保を図るなど適切な避難行動をとってください

国交省・気象庁



自治体
マスコミ



<水位の位置づけ>

【氾濫危険水位】

- 市町村長の避難指示の発令判断の目安
- 住民がとるべき行動は、危険な場所から全員避難する水位

【避難判断水位】

- 市町村長の高齢者等避難開始の発令判断の目安
- 住民がとるべき行動は、危険な場所から高齢者等は避難する水位

【氾濫注意水位】

- 水防団出動の目安
- 住民がとるべき行動は、自らの避難行動を確認する水位

○「川の防災情報」では、川の水位や洪水予警報、ダムの操作状況などをリアルタイムで提供しています。

国土交通省
川の防災情報

川の脅威から身を守る防災情報サイト

このページの操作説明

[地点登録](#) | [地図から探す](#) | [市町村から探す](#) | [情報マルチモニタ](#) | [最新の情報を知る](#) | [調査情報を知る](#) | [災害に備える](#) | [防災関連サイト集](#)

発表されている全国の洪水の危険度（洪水予報等） 2025年06月02日11:30更新

氾濫発生情報発表表（警戒レベル5相当）
発表情報はありません。

氾濫危険情報発表表（警戒レベル4相当）
発表情報はありません。

氾濫警戒情報発表表（警戒レベル3相当）
発表情報はありません。

氾濫注意情報発表表（警戒レベル2相当）
発表情報はありません。

※発表されている都道府県をクリックすることで対応する都道府県の発表情報に移動します。
※同じ都道府県内に複数の情報が発表されている場合は、最も高い警戒レベルの情報のみに表示しています。

情報を探す

フリーワード検索

地点登録

自宅や勤務先など、よく見る地点を最大5箇所まで登録して、警戒情報や浸水想定などのリスクを簡単に確認することができます。

地図から探す

エリア地図を見る
見たいエリアをクリックしてください。

日本地図を拡大し、見たい地域を選択できます。左の地図から見たい地域をクリックするか、下のボタンから全国地図を見ることができます。

市町村から探す

市町村内の各種情報をまとめて確認できます。都道府県を選択して、市町村を選んで「確認する」のボタンを押してください。※都道府県を選んだだけでも確認できます。

都道府県を選ぶ
市町村を選ぶ

最新の情報を知る

洪水予報等

川の水位の状況や今後の見込みを伝える洪水予報。川の水位の状況による水位測定情報。

避難情報

市町村が発表する避難情報。開設避難所の情報。

ダム放流通知

ダムの放流に関するお知らせ。

ライブカメラ画像

現在の河川の状況を撮影したライブカメラ画像。

レーダー雨量(XRAIN)

レーダー雨量計で観測した雨量情報。

調査情報を知る

観測所等の情報

全国の観測所の水位や画像、ダムの状況を表示。

雨量観測所

全国の観測所で計測された降水量、及び降水量の推移。

水質・水温

全国の観測所における水質や水温。

積雪・潮位

全国の観測所における積雪深、海岸の潮位。

水文水質データベース

過去の観測雨量、水位、水害のランキングなどを表示。

災害に備える

水害リスクライン

洪水の危険度の高まりを、地図上で概ね200mごと、両岸別に示した情報。

洪水浸水想定区域図

大洪水で浸水するおそれがある区域。

「気象 × 水害・土砂災害」情報マルチモニタ

気象や水害・土砂災害に関する、12もの今の情報を一覧で確認できる「情報マルチモニタ」です。

洪水予報、水位関連情報

神奈川
東京
埼玉
千葉
群馬
栃木
茨城
栃木
群馬
埼玉
千葉
神奈川

イメージ画像

ダム放流通知

三好ダム
関川ダム
下流ダム
二重ダム
新井ダム
大宮ダム

イメージ画像

洪水の危険性が高まっている河川

利根川
荒川
 Tone River
 Tone River
 Tone River
 Tone River
 Tone River
 Tone River
 Tone River
 Tone River
 Tone River
 Tone River

イメージ画像

避難情報

市町村の発表情報を基に、都道府県単位で最も高い警戒レベルの情報を表示しています。

イメージ画像

河川カメラ

河川の状況を撮影したライブカメラ画像。

イメージ画像

今の状況を確認する



(<https://www.river.go.jp/index>)

- 「**情報マルチモニタ**」では、気象や水害・土砂災害に関する今の情報を**並べて確認**することが出来ます。

川の水位情報

- ・河川水位計
- ・危機管理型水位計
- ・河川監視カメラ情報 (CCTV、簡易型)

浸水の危険性が高まっている河川

洪水予報の発表地域

ダムの放流通知、操作状況

洪水キキクル
・気象庁
浸水害の危険度

土砂キキクル
・気象庁
土砂災害の危険度

水害リスクライン

- ・平面的なリスク情報
- ・河川カメラ

避難情報

- ・市町村等が発表紙や避難指示などの災害関連情報

※「洪水キキクル（危険度分布）」「土砂キキクル（危険度分布）」は気象庁ウェブサイトへリンクしています。
運用協議会が運用するホームページへリンクしています。
避難指示などの災害関連情報を、一般財団法人マルチメディア振興センターが収集、メディア等に対し一斉に配信する災害情報共有システムです。



(<https://www.river.go.jp/index>)

主なコンテンツの改善(R7.3～)

①河川カメラの過去画像表示機能及び②履歴動画表示機能

過去の日付（時刻）を設定しても、現在の時刻の画像が表示される仕様にしていた。



現況と平常時の静止画像を表示

カメラ以外は過去の情報が表示されるが、カメラは現在の画像が表示されるため、利用者に誤解を与える可能性がある。

過去の日付（時刻）を設定すると、その日付の画像を表示することができる。

※ただし、遡ることができるのは3日前まで。



再生ボタンの追加

現在までの履歴動画を表示する機能を追加（1時間程度）

- 水害リスクラインは洪水の危険度(越水・溢水)を表示するシステム
- 概ね200mごとに計算した水位と危険水位(堤防高、基準水位)を比較し、左右岸別に河川の連続的な危険度を表示

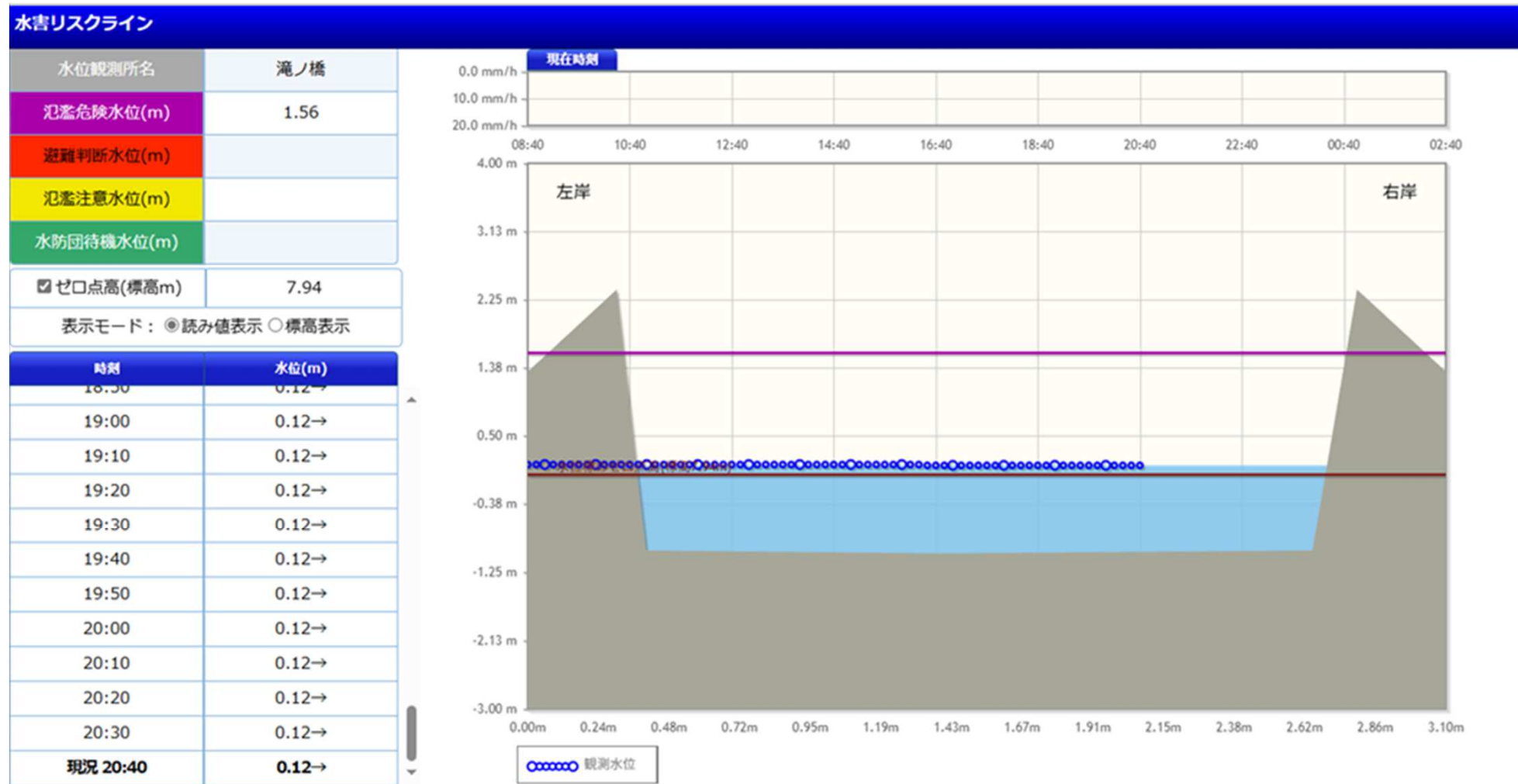
①平面表示

- ・河川ごとの危険度分布が確認可能
- ・観測所位置をクリックすると実況画面、河川をクリックすると水位縦断画面へ遷移
- ・カメラマークをクリックするとCCTVの画像も表示可能



②観測所水位表示

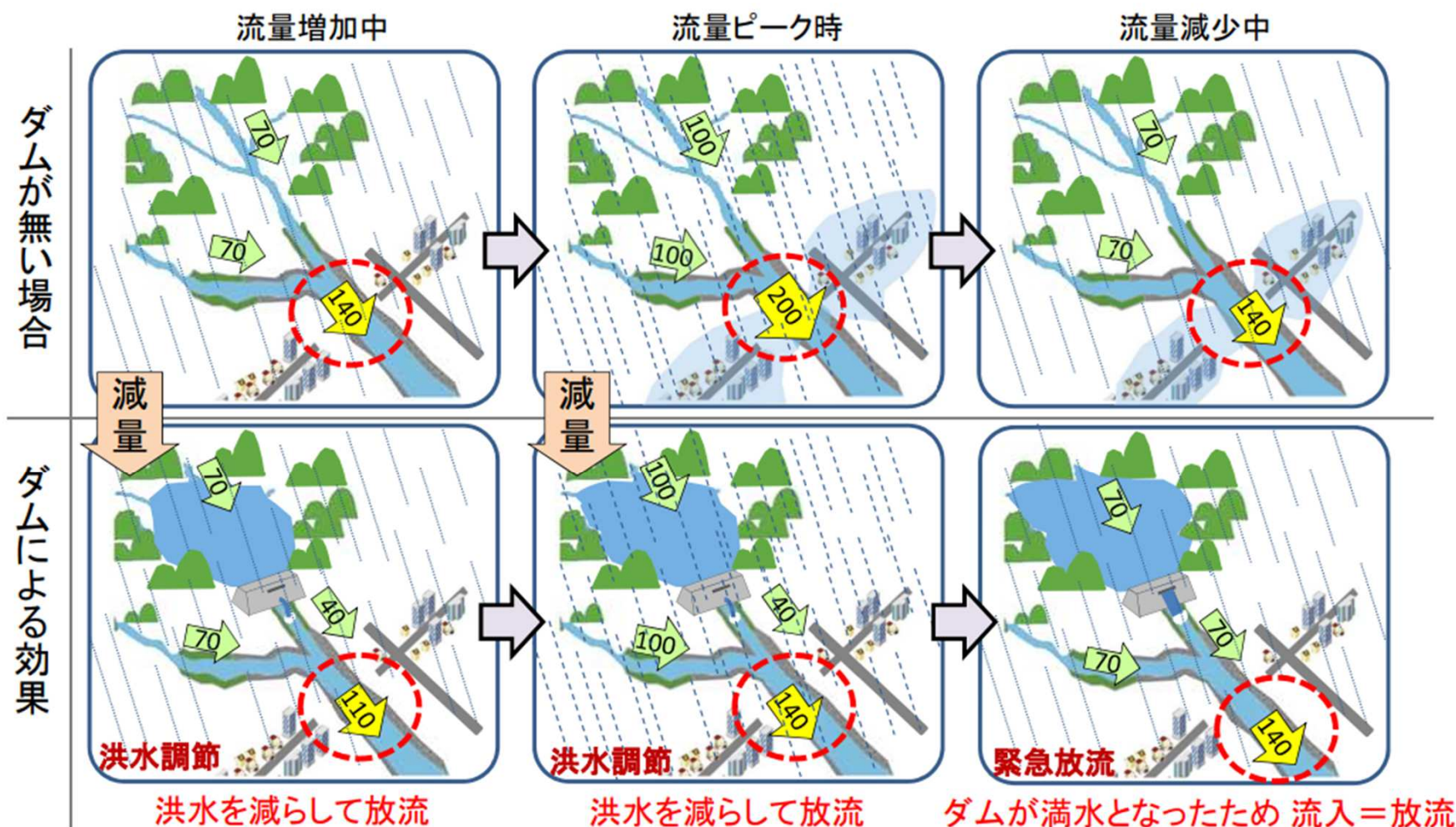
- 任意の観測所(▲マーク)を選択すると、当該観測所の実況水位を表示

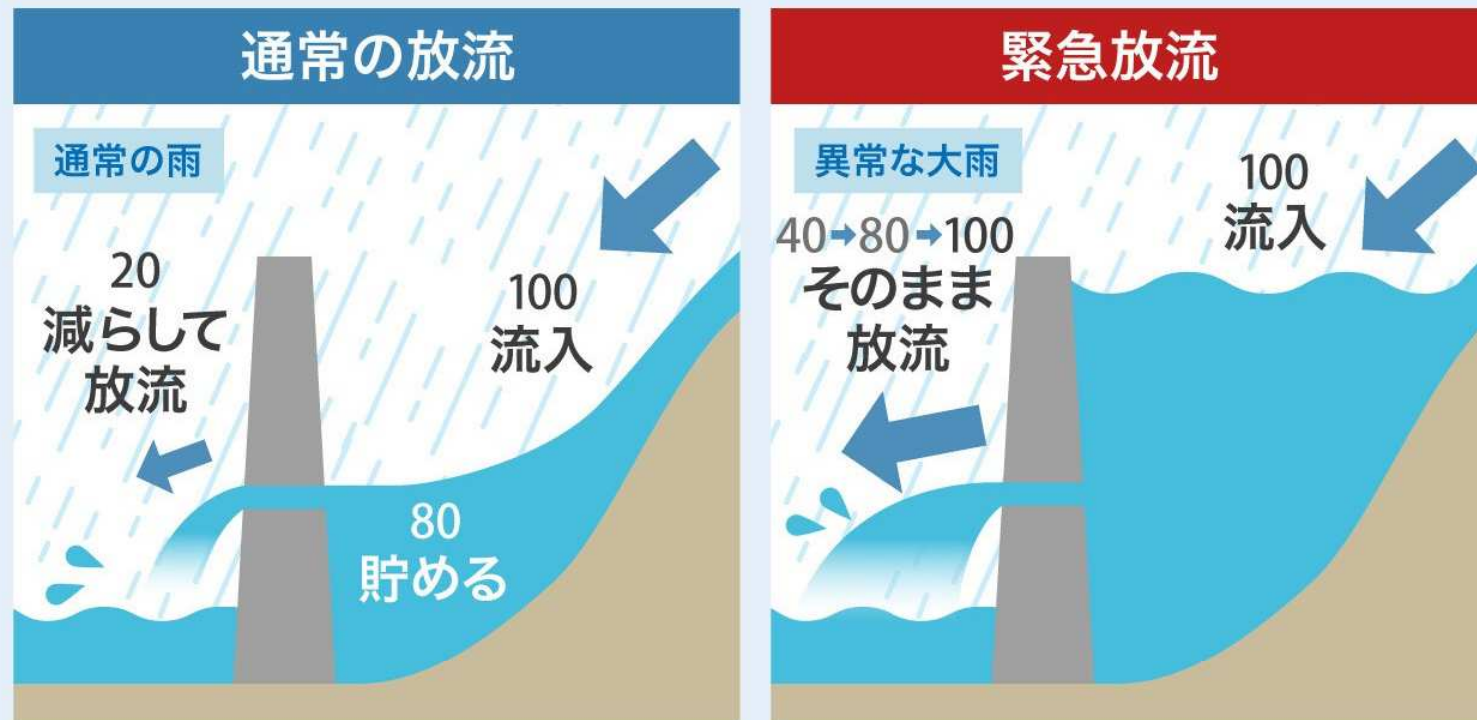


ダムの防災操作

ダムが緊急放流に移行しても、ダムは大きな効果を発揮

- ダムは、洪水調節の際には、下流河川の流量を少なくする。
- 緊急放流を行った場合でも、ピークをずらす効果により、下流の被害を回避・軽減します。





大雨でダムが満水に近づいた時…

下流の河川の急激な水位上昇を防ぐため、放流量を徐々に増加させ、ダムに流入した水をそのまま下流に流す

「ダムに貯めこんだ水を一気に放流する」のではない

ダムが低く抑えていた下流河川の水位が上昇する恐れ

下流の地域にいる人がとるべき行動は？

⇒ 自治体からの避難情報を確認、早めの避難行動を

情報入手する手段

自治体



防災行政無線



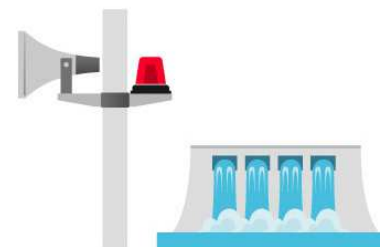
メール・SNS など

メディア



インターネット
スマホアプリ
テレビ・ラジオなど

ダム管理者

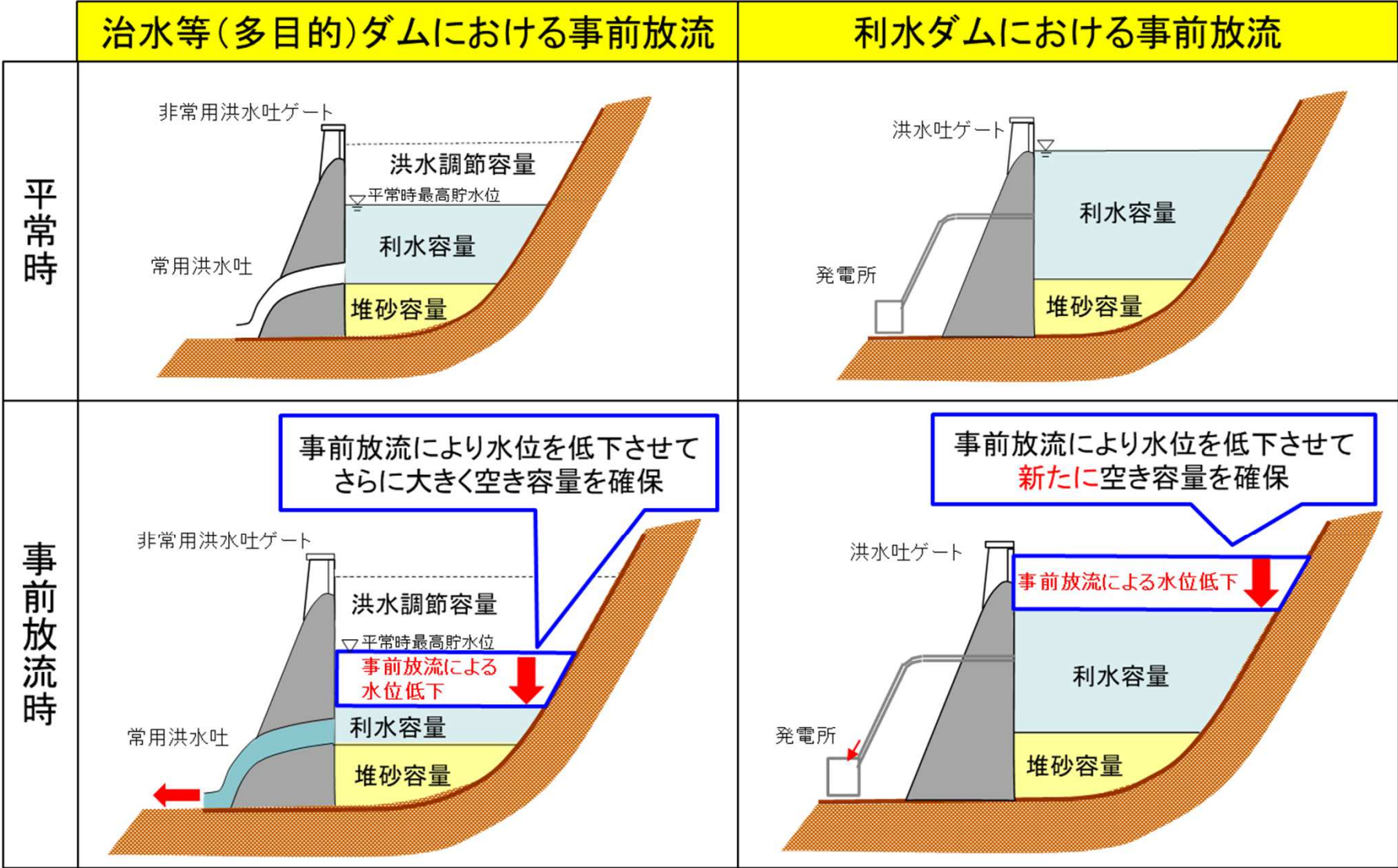


サイレン



警報車

○洪水発生前に大雨に備えて、**利水容量の一部を事前に放流**し、洪水調節のための容量として活用。



国土交通省
関東地方整備局

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Kanto Regional Development Bureau.

Press Release

令和6年〇月〇日
国土交通省関東地方整備局
〇〇〇ダム統合管理事務所

〇〇ダムで事前放流を実施します

利根川水系〇〇川〇〇ダム（〇〇県〇〇市）では、台風第〇号の接近に伴い大雨が予想されることから、今後の防災操作（洪水調節）に備えて、ダム水位を通常より低下させ防災操作（洪水調節）に活用する空容量をさらに増やすため、〇月〇日〇時から事前放流を実施します。

この操作で、ダム放流量を徐々に増加させるため、降雨が降り始める前でも〇〇ダム下流の〇〇川の水量が増加しますので、川には近づかないよう注意してください。

下流河川の水位上昇に注意してください。

ダム情報のホームページ

ダム情報は「川の防災情報ホームページ」をご確認ください。

〇〇川〇ダム放流情報は「〇〇〇ダム統合管理事務所ホームページ」をご確認ください。

<発表記者クラブ> 竹芝記者クラブ 埼玉県政記者クラブ 神奈川建設記者会

<問い合わせ先>

国土交通省 関東地方整備局 〇〇〇ダム統合管理事務所

電話：〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

副所長 〇〇 〇〇（〇〇〇〇 〇〇〇〇）（内線〇〇〇）

〇〇課長 〇〇 〇〇（〇〇〇〇 〇〇〇〇）（内線〇〇〇）

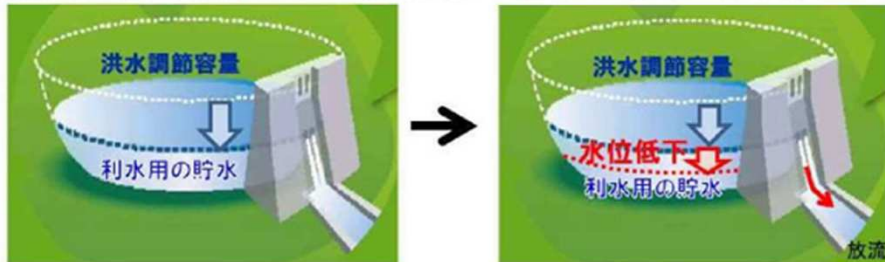
大雨が予想されるため、
ダムから**事前放流**を行います

川を利用される皆様へのお願い

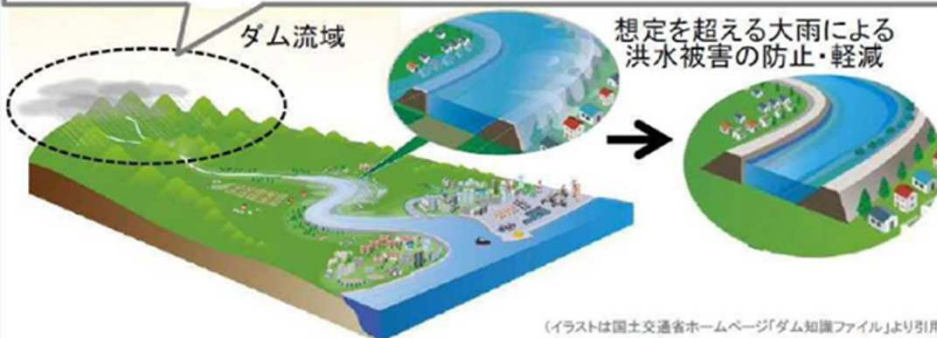
事前放流では、雨が降り始める前や、場合によっては晴天の時からダムの放流を始めることとなります。ダムからの放流を開始する前には、サイレンを鳴らしスピーカーで放送等を行います。放流により増水するため、事前放流が行われている時は、川から離れ、川に近づかないようにして下さい。



●利水用の貯水を放流して、空いた容量を一時的に洪水調節に利用します。



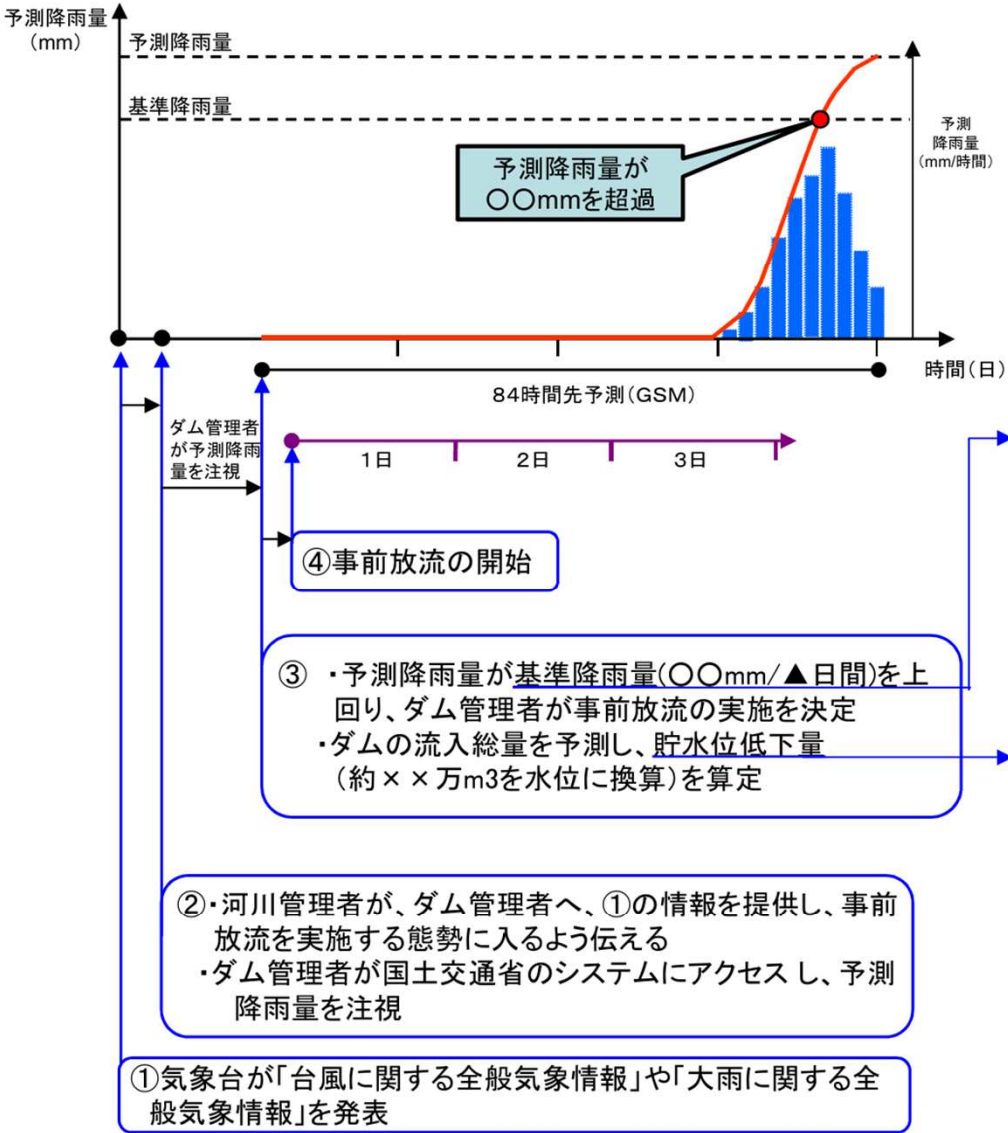
◎現状で、多目的ダムは、洪水期（夏～秋）に洪水調節容量を確保します。利水ダムは、年間通して洪水調節容量を持ちません。



※ダムの容量には限りがあること。又、ダムは、下流に降った雨を貯めることが出来ないため、事前放流によって水害を完全に防げるものではありません。

（イラストは国土交通省ホームページ「ダム知識ファイル」より引用）

○事前放流の実施判断



※小規模な農業用ダム等については、季節ごとにあらかじめダムの水位を低下させておくなどの運用（簡易な事前放流）を行う。

【基準降雨量】

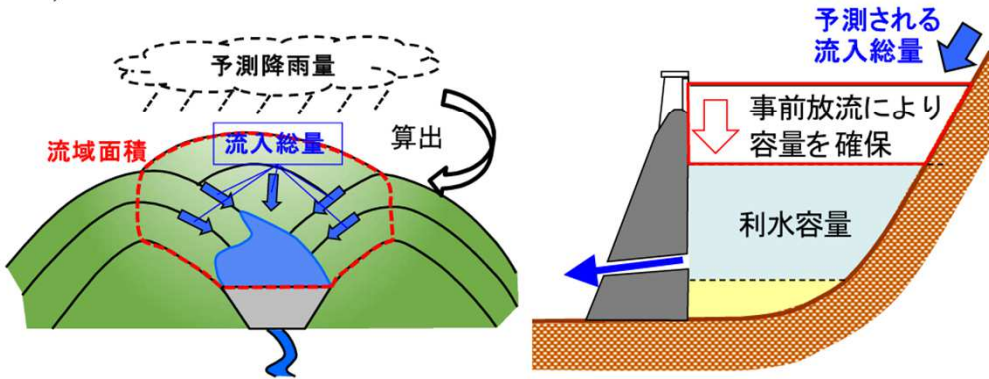
ダム上流域で基準降雨量（〇〇mm/日）を上回るとき、下流河川において、氾濫するおそれがある危険な状態となる



【貯水位低下量】

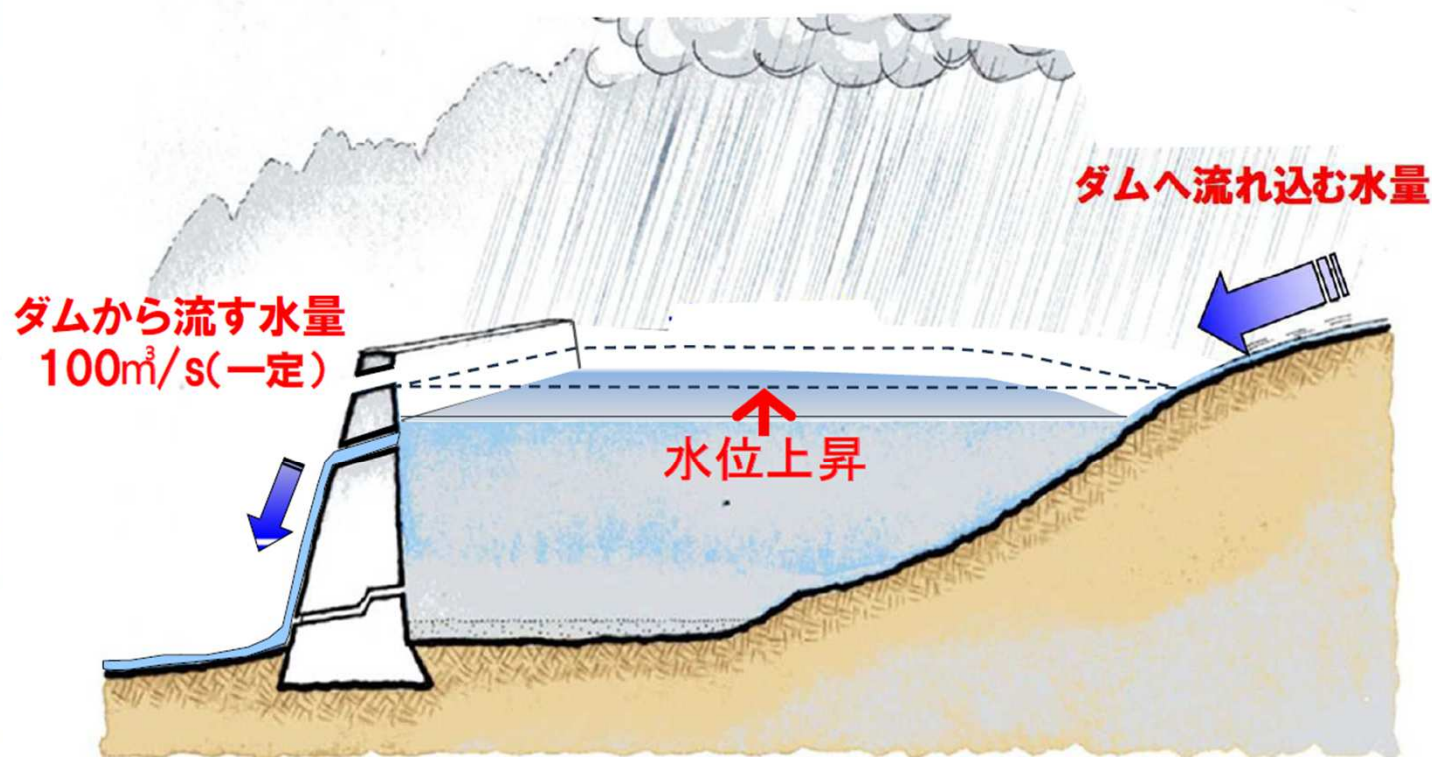
予測降雨量をもとにダムの流入総量を算出し、事前放流により確保する容量として、約××万m3を算定し、これを貯水位に換算

⇒ ××万m3の容量を確保するべく水位低下



○ダムは、洪水時にダムへ流れ込む水量に対して、ダムから流す水量を少なくすることで、洪水調節を行っています。

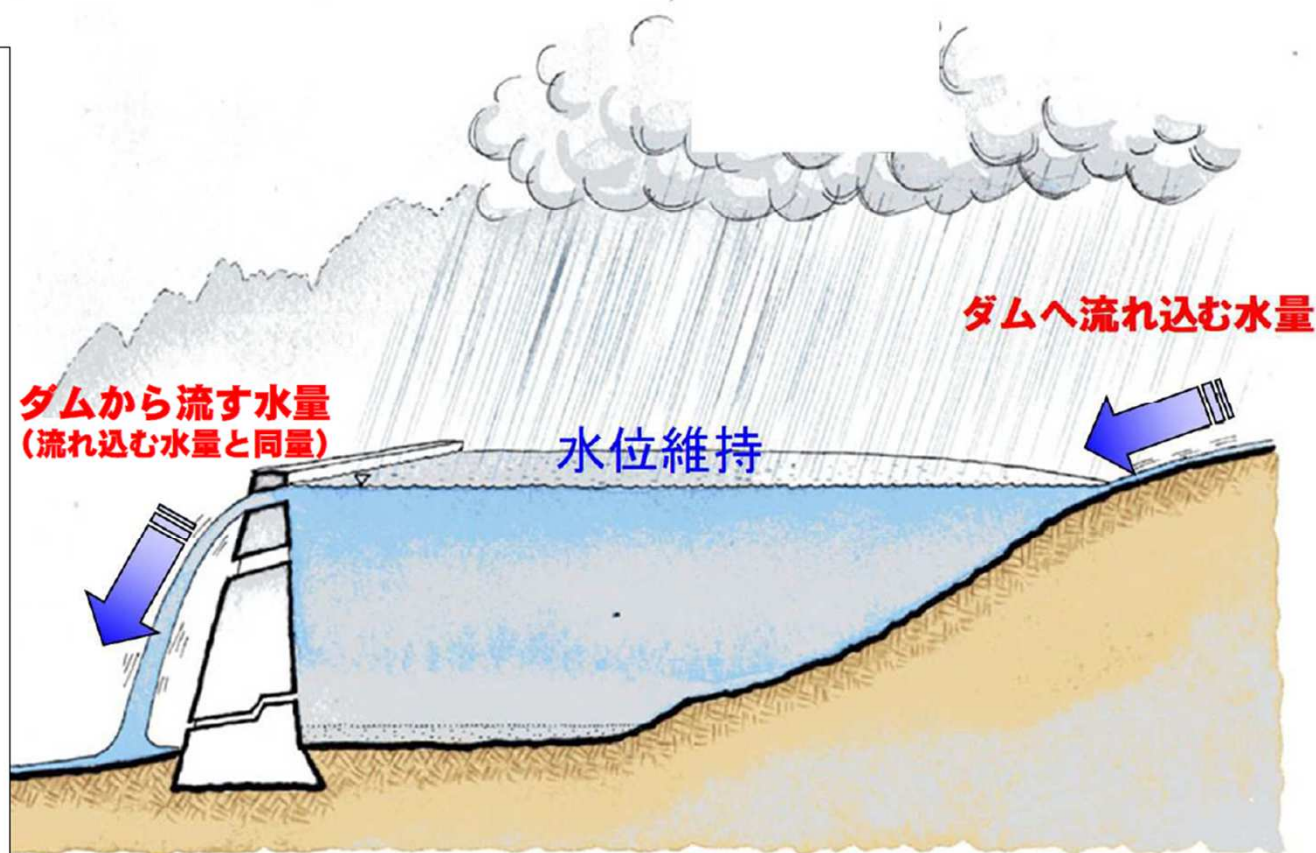
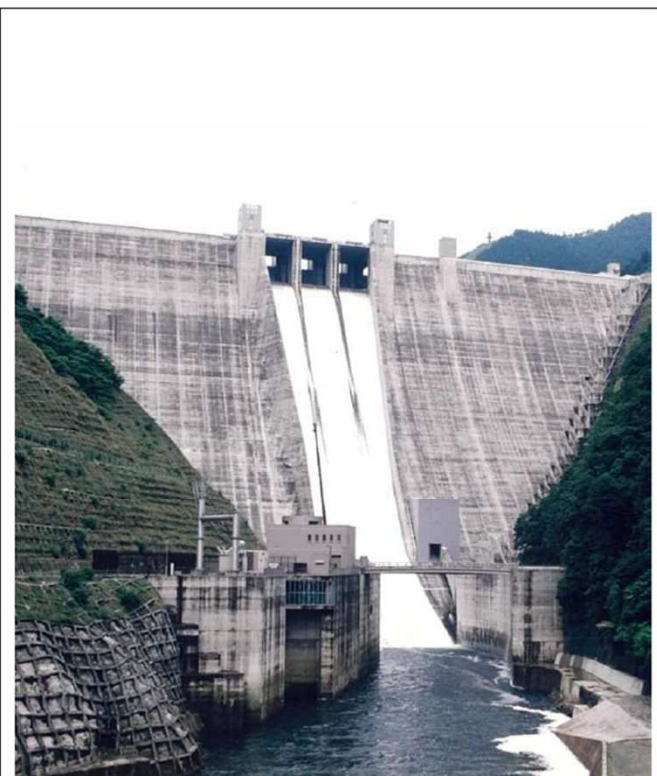
○宮ヶ瀬ダムでは、洪水時にダム下流へ $100\text{m}^3/\text{s}$ を放流して、それを越える水量を貯水池（宮ヶ瀬湖）に貯めることで、中津川流域及び相模川下流域の洪水被害を軽減します。



例)宮ヶ瀬ダムでの洪水調節流(異常洪水時防災操作)

- 異常豪雨の下でもダムは、精一杯洪水を貯め込む操作を行います。但し、ダムに貯めることが出来る水量には限界があります。宮ヶ瀬ダムで洪水を貯めきれなくなった場合には、緊急放流としてダムへ流れ込む水量と同じ量を、非常用洪水吐からの自然越流で放流することになります。
- 緊急放流を行う際には、ダムへ流れ込む水量を超えて、ダムから放流することはありませんが、洪水の調節が出来ないため下流では洪水被害の発生する可能性が高くなります。

非常用洪水吐からの放流状況
(ダム完成前の試験放流)



【関係機関通知・可能性の段階】

通知7
ダム連絡

緊急 宮ヶ瀬ダム

通知(受信確認が必要)

【重要通知 緊急放流 5 時間前】

令和 年 月 日 時 分
相模川水系広域ダム管理事務所
発信者:

<ダム操作に関する通知>

宮ヶ瀬ダムでは、現在、防災操作(洪水調節)を行っています。
今後、計画規模を超える洪水が予想されるため、ダムに水を貯められなくなり、 月 日 時 分頃から、緊急放流(非常用洪水吐からの越流)となり、下流に流れる水量が増えるおそれがあります。
そのため、洪水氾濫のおそれがあります。
非常用洪水吐から越流するおむね ● 時間前にも事前通知をしますので、ダムからの連絡等に注意してください。
※今後の降雨状況により、時間が前後する可能性がありますので、ご注意ください。

警戒レベル4

・ダム下流の河川で水量・水位が増加し、氾濫のおそれがあり。
・避難指示等の措置が必要。

【ダム情報】
現在時刻: 月 日 時 分

流入量: m³/s
(1時間前より約 m³/s増加)

放流量: m³/s
(1時間前より約 m³/s増加)

ダム水位: m
(1時間前より約 m上昇)

貯水率(利水容量): 約 %
(1時間前より約 %上昇)

※値は全て速報値

※ダム情報のホームページ インターネット <http://www.river.go.jp>

<受信確認> 相模川水系広域ダム管理事務所 TEL: 046-281-2614 FAX: 046-281-2619

発信機関	発信者	発信時刻	受信機関	受信者	受信時刻
		:			:

■緊急放流について
本連絡での緊急放流とは、ダムの能力を超えるような大雨によりダムが満水になるとダム上流側から流入する水をそれ以上貯留できなくなるから、ダムからの放流量をダムへの流入量と同程度となるように増加させ、満水に達したらダムへの流入量をそのまま下流に通過させる操作(異常洪水時防災操作)を行うことです。

【記者発表・可能性の段階】

国土交通省
関東地方整備局
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Kanto Regional Development Bureau.

Press Release

令和 7 年 〇 月 〇 日
国土交通省関東地方整備局
河川部

宮ヶ瀬ダムで緊急放流の可能性がありますが

相模川水系中津川宮ヶ瀬ダム(神奈川県)では、現在、防災操作(洪水調節)を行っています。
予測では、今後、計画規模を超える洪水となるおそれがあるため、ダムに水を貯められなくなり、〇月〇日〇時頃から、緊急放流(非常用洪水吐からの越流)となり、下流に流れる水量が増えるおそれがあります。
非常用洪水吐から越流するおむね●時間前に発表します。
※今後の降雨状況により時間が前後する可能性がありますので、ご注意ください。

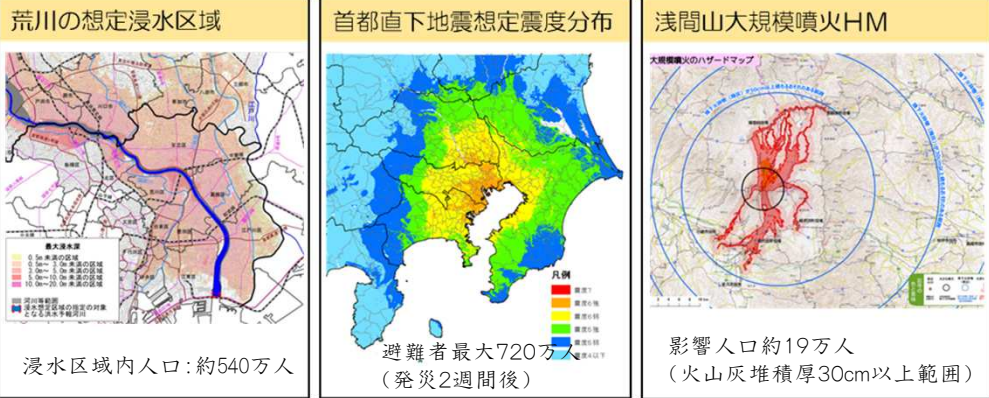
ダム情報のホームページ
ダム情報は「川の防災情報ホームページ」をご確認ください。

<発表記者クラブ> 竹芝記者クラブ 埼玉県政記者クラブ 神奈川建設記者会

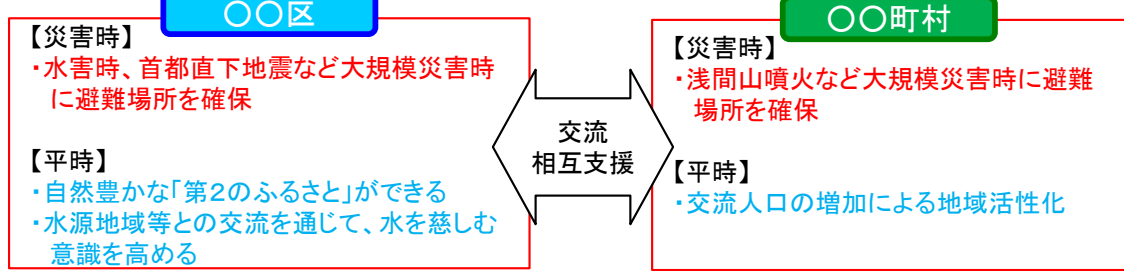
<問い合わせ先>
国土交通省 関東地方整備局 災害対策室
電話: 048-600-1421
河川部 広域水管理官 ●● ●● (●● ●●)
河川管理課長 ●● ●● (●● ●●)

- 関東地方では、水害・地震・噴火など、様々な大規模災害が想定されるところ。
- 関東大震災では、多くの方が都心から北関東などへ一時的に避難。能登半島地震においても、多くの方が被災地以外へ避難。また自治体間の対口支援も実施されたところ。
- そのような災害時の相互支援を実施するためには、平時からの連携・交流が重要であるとともに、このような、広域連携は相互の地域・自治体にメリットがあるもの。
- そのため、関東地方整備局として、関東圏の防災力の強化を図るため、首長によるミーティング開催等を通じ、伴走支援を実施。

1) 関東地方で想定される様々な大規模災害



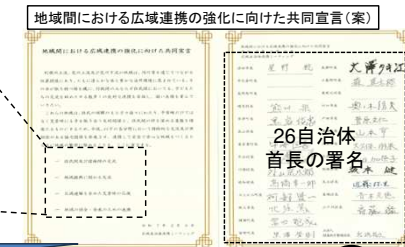
3) 広域自治体連携のメリット



4) 広域自治体連携ミーティング 開催状況

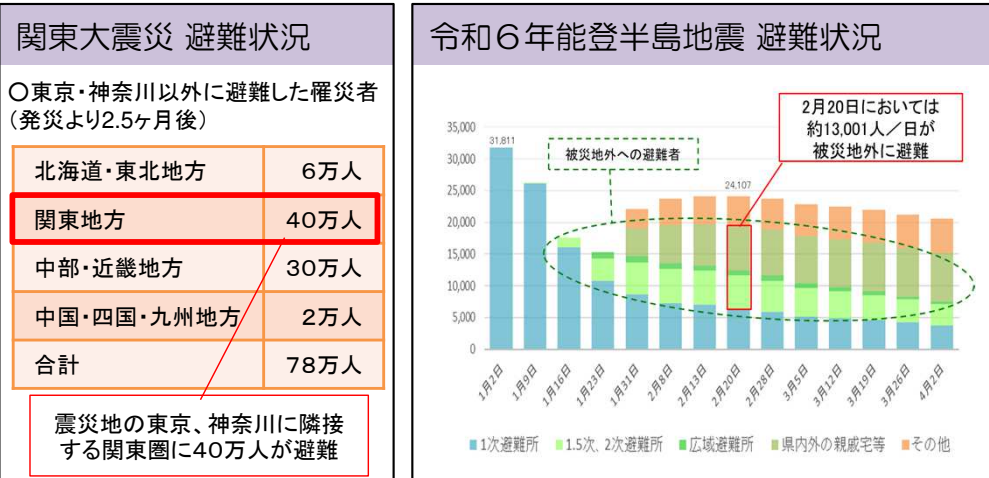
- 【第1回】令和5年12月13日（水）：川場村役場
※参加自治体数：7自治体（内首長参加6名）
- 【第2回】令和6年6月26日（水）：北とぴあ
※参加自治体数：23自治体（内首長参加20名）
- 【第3回】令和7年2月6日（木）：北とぴあ
※参加自治体数：24自治体（内首長参加17名）
→自治体間の連携をより一層深化するため、以下の各分野における交流・協力関係を発展させるための「**共同宣言**」を実施

- 住民間及び団体間の交流
- 地域振興に関わる交流
- 広域避難を含めた災害時の応援
- 地域の保全・発展のための連携



国による伴走支援を継続して実施

2) 関東大震災等では多くの方が被災地外へ避難



- 令和5年12月13日(水)15:30～17:00 川場村役場 交流ホールで開催
- 参加者 沼田市長、長野原町長、嬬恋村長、片品村長、川場村長、みなかみ町長、世田谷区、吾妻郡・利根郡自治体関係者、関東地方整備局(全35名)
- 挨拶 国土交通省 関東地方整備局長
- 背景説明 国土交通省 関東地方整備局河川部長
- 講演 川場村役場 外山村長「川場村のむらづくり」
- 全体ミーティング 事例紹介(東吾妻町及び草津町の自治体連携事例)、意見交換

- ◇ 大規模災害に備え、平時から都市と地方の連携を深めていくことを目的として、川場村と世田谷区の縁組協定の事例を参考に群馬県北部地域の自治体と意見交換。
- ◇ 気候変動の影響で多発する水害や首都直下地震、火山噴火等の大規模災害が発生した際、多くの避難者受入など相互支援が円滑にできるよう平時からの体制づくりの必要性を確認。

■開催状況



■挨拶 関東地方整備局 藤巻局長



「大規模災害に備え事前防災対策をより一層加速化させていくことが重要」
「地方と都市部のお互いの良いところを生かしながら、平時から連携関係を築けていけるよう皆さんと考えていきたい。」

■講演 川場村役場 外山村長



『川場村のむらづくり』
・ 農業プラス観光(政策)
・ 都市交流事業
・ 田園プラザ事業
・ 木材コンビナート事業
・ 新庁舎の紹介
[災害時の活用
バイオマス自家発電設備など]

■意見交換の様子



沼田市長



嬬恋村長



長野原町長



世田谷区交流推進課長



片品村長



みなかみ町長

■主な意見

- 都市部にはない豊かな自然や人の温かさやを求めて村と縁組協定を結び、小学生の移動教室による農作業体験や区イベントでの物産販売など多くの交流を行っている。(世田谷区)
- 大災害時は1自治体だけで避難者を受け入れられない。緑豊かで心温かい利根沼田、吾妻がスクラムを組んでいくことが大切。(長野原町長)
- 北毛地域には宿泊施設も多い。各自治体の都市部との交流をより広域化し、歩一歩前に進めていきたい。(嬬恋村長)

広域自治体連携ミーティングを開催しました

主催：国土交通省関東地方整備局



開催状況

■ 大規模災害に備え平時から都市と地方の連携を深めていくことを目的として、自治体からの事例をもとに意見交換を実施。

○開催日時：令和6年6月26日（水）15:30～ 【於：東京都北区 北とぴあ】

○参加者：群馬県【沼田市長、中之条町長、長野原町長、嬭恋村長、高山村長、東吾妻町建設課長、片品村長、川場村長、みなかみ町長】

埼玉県【川口市危機管理部長、秩父市長、戸田市長、横瀬町長、皆野町長、長瀬町長、小鹿野町長】

東京都【墨田区長、江東区長、北区長、板橋区長、足立区副区長、葛飾区長、江戸川区長】

関東地方整備局【局長、河川部長、荒川下流河川事務所長、利根川ダム統合管理事務所長、二瀬ダム管理所長】

○挨拶、事前説明：国土交通省 関東地方整備局長、河川部長

○全体ミーティング 事例紹介（葛飾区長・秩父市長・中之条町長）、意見交換

【結果】災害時の相互支援のため平時からの顔の見える関係づくり 及び 広域自治体連携ミーティング継続の必要性を確認。

■ 開催状況

広域自治体連携ミーティング



■ 挨拶 関東地方整備局 藤巻局長



「大規模災害に備え事前防災対策をより一層加速化させていくことが重要」

「地方と都市部のお互いの良いところを生かしながら、平時から連携関係を築けていけるよう皆さんと考えていきたい。」

■ 全体ミーティング 事例紹介



葛飾区長

災害時相互応援協定、江東5区広域避難の取り組み等



秩父市長

豊島区との自治体連携事業等



中之条町長

北区との災害時相互支援、交流事業等

■ 全体ミーティング 主な意見

- 自治体間の広域連携の強化は大変重要。今後、慣れない土地でも安心して避難生活ができる環境を整えていく。（板橋区長）
- 連携を深めるためには、各自治体がどのような地域か理解することが重要。そのため、本ミーティングのような緩やかな交流から進めていくことが大事。（長野原町長）
- 能登半島地震の際、被災市町村との協定がなく、的確な人的支援が難しい部分もあったため、即時的な支援が可能となる実効性のある協定を増やしていきたい。（江東区長）
- 自治体により様々な条件・状況があるので、引き続き、コーディネート役を国でやっていただきたい。（秩父市長）

26自治体の首長が広域自治体連携に向けた共同宣言を行いました

- 大規模災害に備え平時から都市と地方の連携を深めていくことを目的として、第3回広域自治体連携ミーティングを開催。
- 関係する26自治体のうち24自治体（うち首長参加17自治体）が参加、「地域間における広域連携の強化に向けた共同宣言」を行い、共同宣言の内容をテーマに意見交換を実施
 - 開催日時：令和7年2月6日（木）15:30～ 【於：東京都北区 北とぴあ】
 - 参加者：群馬県【沼田市長、長野原町未来ビジョン推進課長、嬬恋村長、草津町長、東吾妻町長、片品村長、川場村長、昭和村長、みなかみ町長】
埼玉県【川口市副市長、秩父市長、戸田市危機管理監、横瀬町長、皆野町長、長瀬町長、小鹿野町長、東秩父村副村長】
東京都【墨田区都市計画部危機管理担当部長、江東区長、北区長、板橋区長、足立区副区長、葛飾区副区長、江戸川区長】
関東地方整備局【局長、河川部長、荒川下流河川事務所長、利根川ダム統合管理事務所長、二瀬ダム管理所長】
 - 挨拶、事前説明：国土交通省 関東地方整備局長、河川部長
 - 共同宣言の実施、全体ミーティング（意見交換）
- 【結果】共同宣言を踏まえて、流域全体での災害協定締結の提案があった。そのような協定締結には、災害時のみならず平時の連携も含めた内容が必要との意見もあり、引き続き、国が伴走支援していくことを確認した。

■開催状況



■挨拶、ご発言 関東地方整備局 岩崎局長

「R6能登半島地震など、頻発化・激甚化する災害に対して、広域支援体制や平時からの連携の重要性を改めて認識。」



「災害時の取り組みを自分事化することが大事。災害時に備え平時から連携することで相互理解も深まる。自治体の取り組みが円滑に発展していくためにも引き続き、国がコーディネート役として支援していく。」

■全体ミーティング 主な意見

- 前回ミーティング（R6.6.26）で廃校活用の提案をしたが、その後、墨田区より相談があった。R7年度には、廃校活用検討委員会を立ち上げ、廃校活用の方向性を決めていく予定（長瀬町長）
- 東日本大震災の際、南相馬市より避難者を受け入れたことを契機に防災協定を結ぶとともに、今でも交流を行っている。こうした関係人口を作っていくことが肝心（片品村長）
- 共同宣言を踏まえ、流域全体での災害協定の締結を提案。協定締結により広域連携の実効性、災害対応力の強化につながればと考える（江戸川区長）
- 上流と下流の地域がwin-winの関係を築くためには、災害時の協定と平時の連携（例えば水源を守る森林整備など）をセットで進めていく必要がある（横瀬町長）
- 広域自治体連携を進めていくために、引き続き、国土交通省の支援をいただきたい（江戸川区長、嬬恋村長、川場村長）

